

# 2026 年度 全国頸髓損傷者連絡会総会・兵庫大会

日時：2026 年 6 月 13 日（土） / 14 日（日）

場所：兵庫県立淡路夢舞台国際会議場

全国頸髓損傷者連絡会

# 【 目 次 】

## あいさつ

- ご挨拶 全国頸髄損傷者連絡会 会長 鴨治 慎吾 ..... 3  
兵庫頸髄損傷者連絡会 会長 米田 進一 ..... 4

## 大会プログラム ..... 5

## 講演会Ⅰに寄せて ..... 6

- 人工呼吸器使用者の旅 ..... 米田 進一  
旅とともに成長する ..... 土田 浩敬  
旅が私に気づかせてくれたこと ..... 島本 卓  
旅（チャレンジ）が自分を変えた ..... 伊藤 靖幸

## 講演会Ⅱに寄せて ..... 15

- 頸髄損傷者におけるピアサポートの重要性 ..... 鴨治 慎吾  
ピアサポートが広げる自立と社会参加の可能性 ..... 宮野 秀樹

## 企業広告（五十音順） ..... 20

アビリティーズ・ケアネット株式会社 訪問介護コンサルティング SOBAE  
但陽信用金庫

## 2026年度 全国総会資料 ..... 22

- I 2025年度 本部活動報告 ..... 23  
II 2025年度 支部活動報告 ..... 25  
栃木頸髄損傷者連絡会 ..... 25  
東京頸髄損傷者連絡会 ..... 25  
愛知頸髄損傷者連絡会 ..... 26  
頸髄損傷者連絡会・岐阜 ..... 26  
京都頸髄損傷者連絡会 ..... 27  
大阪頸髄損傷者連絡会 ..... 28  
兵庫頸髄損傷者連絡会 ..... 31  
香川頸髄損傷者連絡会 ..... 35  
愛媛頸髄損傷者連絡会 ..... 36  
徳島頸髄損傷者連絡会 ..... 37  
九州頸髄損傷者連絡会 ..... 37  
III 2025年度 収支報告書・監査報告書 ..... 38

IV	頸損者を取り巻く現状と課題	39
	・ 障害者の権利保障	39
	・ 介助制度	39
	・ 交通・まちづくり	40
	・ 福祉用具(補装具・日常生活用具)	41
	・ 医療関係	42
	・ 住宅環境	42
	・ 所得保障・就労	43
	・ 女性の権利	44
V	2026年度 活動方針提起	45
VI	2026年度 予算案	48
VII	2026年度 本部役員・事務局体制案	48
VIII	2026年度 規約改正案	49

## ご挨拶



第 53 回全国頸髄損傷者連絡会総会・兵庫大会の開催にあたり、ご参加いただきました皆様、そして開催に向け多大なるご尽力をいただきました実行委員会、関係機関、支援者の皆様に心より御礼申し上げます。

本大会は、兵庫県淡路市・淡路夢舞台国際会議場において開催することとなりました。淡路島は、美しい自然と豊かな文化を持つ地域である一方、公共交通や移動環境の面では、障害当事者にとって決して「行きやすい場所」とは言えません。しかし、だからこそ私たちがこの地に集うことには大きな意味があります。

障害があっても、どの地域にも行くことができ、学び、交流し、社会参加できることは、本来当たり前前に保障されるべき権利です。アクセスに課題がある地域に実際に足を運び、その課題を共有し、改善を求め続けることそのものが、私たちの運動であり、社会を変えていく力になります。

頸髄損傷は、四肢麻痺や呼吸障害などを伴い、生活全般に大きな影響を及ぼす障害です。しかし私たちは、障害があるからこそ社会から隔てられるのではなく、必要な支援や環境整備によって地域で主体的に生きていける社会を目指し、セルフヘルプ活動を続けてきました。

現在、当会は全国本部を中心として、11 支部および地区連絡所が連携し、介助制度、交通・まちづくり、住宅環境、福祉用具、医療、就労と所得保障、女性の権利など、多岐にわたる課題に取り組んでいます。

昨年度を振り返ると、介助人材不足の深刻化、物価高騰による生活負担の増加、地域格差によるサービス利用の困難さなど、頸髄損傷者を取り巻く環境は依然として厳しい状況が続いています。一方で、JR 各社における車椅子席予約の改善や、オンラインでの障害者割引乗車券の利用拡大など、社会参加を後押しする前向きな動きも見られました。

また近年は、「地域で生きること」そのものが改めて問われています。災害時の避難、医療的ケアへの対応、重度訪問介護の維持、住宅確保など、重度障害者が地域で安心して暮らし続けるためには、制度だけではなく、人と人とのつながりや地域社会の理解が不可欠です。

本大会では、「あきらめない旅—頸髄損傷者が切り開く『旅』と『可能性』—」をはじめ、「支えられる社会から、支え合う社会へ—ピアサポートが広げる自立と社会参加の可能性—」というテーマのもと、多くの仲間と学び、語り合える機会を設けました。

私たちは、同じ障害を持つ仲間同士が出会い、経験を共有し、「一人ではない」と感じられる場を大切にしています。セルフヘルプ活動は、単なる相談活動ではなく、社会を変えていく原動力でもあります。

これからも私たちは、障害の有無に関わらず、誰もが地域で主体的に生きることのできる社会を目指し、諦めることなく Take Action（行動）を続けてまいります。

本大会が、参加された皆様にとって新たなつながりや希望、そして次の一歩につながる場となることを願っております。

全国頸髄損傷者連絡会  
会長 鴨治 慎吾

## ご挨拶



全国頸髄損傷者連絡会 第53回総会・兵庫大会の開催にあたり、全国各地からご参加いただきました皆様に心より感謝申し上げます。また、本大会の開催に向けてご支援、ご協力をいただきました関係機関、企業、団体、ボランティアの皆様には厚く御礼申し上げます。

兵庫支部として全国大会をお迎えするのは大変光栄なことであり、実行委員一同、この日を迎えられたことを大変嬉しく思っております。

今回の開催地は兵庫県淡路市、淡路島です。瀬戸内海の豊かな自然に囲まれ、日本神話では国生みの舞台として語り継がれる「おのころ島」ともゆかりの深い地域です。一方で、障害のある人にとっては、決してアクセスしやすい場所とは言えません。移動手段の選択肢が限られ、介助や宿泊の調整も必要となるため、「行きたいけれど行けない」と感じる方も少なくないと思います。

しかし、私たちはだからこそ、この淡路島で全国大会を開催することに大きな意味があると考えました。障害があることで行動範囲が制限されたり、参加をあきらめたりしなければならない社会であってはなりません。どの地域にも自由に行くことができ、学び、交流し、挑戦できる社会を実現するためには、実際にその場所へ足を運び、課題を共有し、改善を求め続けることが必要です。淡路島での開催は、そのような私たちの意思を示す挑戦でもあります。

本大会では、「あきらめない旅—頸髄損傷者が切り開く『旅』と『可能性』—」をテーマに、重度障害があっても世界へ挑戦し続ける当事者の経験から、旅や社会参加の可能性について考えます。旅は単なる移動ではありません。新しい人との出会い、新しい価値観との出会い、そして自分自身の可能性との出会いでもあります。

また、「支えられる社会から、支え合う社会へ—ピアサポートが広げる自立と社会参加の可能性—」では、同じ経験を持つ仲間だからこそ伝えられる力や、支え合うことによって生まれる新たな可能性について考えます。私たちが今日まで地域で生活を続けてこられた背景には、多くの仲間との出会いと支え合いがありました。

全国大会は、単に総会を行う場ではありません。全国の仲間が集い、それぞれの経験や悩み、希望を共有し、新たなつながりを生み出す場です。そして、そのつながりが次の活動や挑戦への原動力になります。

この淡路島での出会いと学びが、参加された皆様一人ひとりにとって新たな一歩につながることを願っています。

全国からお越しいただいた皆様に心より歓迎するとともに、本大会が実り多いものとなることを祈念し、実行委員長としての挨拶とさせていただきます。

全国頸髄損傷者連絡会 第53回総会・兵庫大会  
実行委員長（兵庫支部会長） 米田 進一

## 大会プログラム

### 第 53 回全国頸髄損傷者連絡会総会・兵庫大会

日 程： 2026 年 6 月 13 日（土）～14 日（日）

開催場所： 兵庫県立淡路夢舞台国際会議場・イベントホール  
〒656-2306 兵庫県淡路市夢舞台 1 番地

#### ■第一日目 2026 年 6 月 13 日（土）

- |  |             |
|--|-------------|
| 1. 式 典   | 13:00～13:30 |
| 2. 講演会 I   | 13:30～16:15 |
| あきらめない旅-頸髄損傷者が切り開く「旅」と「可能性」<br>- 電動車椅子の世界一周、人工呼吸器での海外渡航、<br>そして「車椅子から立って見える世界」への挑戦 - |             |
| 3. 懇 親 会   | 18:00～20:00 |

#### ■第二日目 2026 年 6 月 14 日（日）

- |  |             |
|--|-------------|
| 1. 全国頸髄損傷者連絡会総会                                | 10:00～12:00 |
| 2. 講演会 II                                      | 13:00～15:00 |
| 支えられる社会から、支え合う社会へ<br>- ピアサポートが広げる自立と社会参加の可能性 - |             |

※懇親会は、ホテル「グランドニッコー淡路」の宴会場で行われます。

グランドニッコー淡路

<https://www.awaji.grandnikko.com/>

〒656-2306 兵庫県淡路市夢舞台 2 番地

TEL 0799-74-1111

※総会資料は、<https://k-son.net/soukai/>からダウンロードしてください。

講演会 I

あきらめない旅

－頸髄損傷者が切り開く『旅』と『可能性』－  
に寄せて

## 人工呼吸器使用者の旅

兵庫頸髄損傷者連絡会 米田 進一

### ○はじめに

2005 年、就労中の交通事故により頸髄を損傷し、人工呼吸器を使用する生活となりました。事故後は、これまで当たり前できていたことが突然できなくなり、絶望感の中で入院生活を送っていました。

そんな時、主治医から同じ人工呼吸器使用者である故・池田英樹さんを紹介され、社会参加の大切さを教えていただきました。4 月に退院し在宅生活が始まりましたが、初めての外出でアナフィラキシーショックを起こし、その後は主治医の判断で外出が禁止されました。

定期受診だけが唯一の外出となり、当時の私にとって、人工呼吸器を使用しながら社会参加することは大きなリスクと感じ、諦めていました。

### ○兵庫頸髄損傷者連絡会入会から社会参加へ

2007 年 2 月、関西労災病院の医師の紹介で故・三戸呂会長、宮野事務局長と出会い、「兵庫頸髄損傷者連絡会」を知りました。三戸呂会長の「重度の障害があっても社会参加できるよ」という言葉に心を動かされ、入会しました。

同年暮れ、一泊二日の大分旅行に行くため、学生ボランティア 4 名の協力を得ながら何日も介助練習を重ね、出発ギリギリまで母に心配されながら見送られた事も思い出します。この経験は、引きこもりがちな生活では得られなかった「外出する喜び」を実感する大きな転機となりました。



大分別府駅前にて

2008 年、全国頸髄損傷者連絡会総会・大阪大会に学生さんと初めて参加し、カナダ人の人工呼吸器使用者との出会いをきっかけに「海外旅行」を目標に掲げました。その秋に学生ボランティアと 2 泊 3 日の宿泊体験合宿を実施し、2009 年 3 月に合同シンポジウム「外に出ようや」で宿泊体験の報告を行いました。



宿泊体験合宿にて

2010 年、重度訪問介護サービスの利用時間が増えたことで行動範囲が広がり、この年から手動型車椅子から電動車椅子へ移行しました。

2011 年、5 月に広島県在住の人工呼吸器使用者に出会うため、呼吸器トリオがご自宅訪問しました。



呼吸器トリオ広島へ行く

人工呼吸器 3 人が県外へ日帰り外出する事は初めてだったのでとても新鮮でした。

プライベートでは、受傷後初めて家族と北海道を訪れました。片道 12 時間をかけた電車移動でした。

翌年に飛行機へ搭乗するにあたり、人工呼吸器使用者ならではの準備が数多く必要であり、さらに学生を帯同するため、介護練習や現地での過ごし方について、何度も打ち合わせを重ねました。

2012年3月、沖縄に向けて初めて飛行機に搭乗し、海外旅行への夢が一步近づいた瞬間でした。



飛行機に搭乗する様子

ですが・・・まさかの展開で、次の便で母親が追いかけてきた事に一同ドン引きでした。

2017年、長年の目標であった海外旅行に挑戦するため、先輩や支援者の協力を得ながら、短期間で立てた無謀とも言える計画に踏み出しました。最大の不安は、人工呼吸器のバッテリーが本当に持続するのか、そして無事に帰国できるのかという点でした。それでも挑戦を諦めることなく、事前体験としてハワイを訪れることができました。

事前準備をほとんど支援者に任せてしまった事が反省点でした。それでも支援者の協力なしでは達成できなかったと思うので、本当に感謝しています。

2018年には、プライベートで家族への恩返しとして、家族をハワイへ連れて行くことができました。



家族旅行にて

2019年には、全国頸髄損傷者連絡会総会・九州大会に参加するため、移動手段を変えてフェリーを利用しました。その結果、陸・海・空すべての移動を経験することができました。

### ○バンクーバー訪問実現

2025年、私の念願であったカナダ・バンクーバー訪問がついに実現しました。現地では、人工呼吸器のバッテリーが切れてしまうというトラブルもあり、ハラハラしながらの移動となりましたが、なんとか無事にホテルへ到着することができました。

また、現地の人工呼吸器使用者との交流やアクセシビリティの体験を通して、日本との違いについて学ぶ貴重な機会となりました。

呼吸器使用者である私にとって最大の目標とも言える挑戦を達成できたことに、感無量でした。



Pink Alleyにて

### ○私が思う旅とは

人工呼吸器使用者にとっての旅は、決して簡単なものではなく、一步間違えれば命に関わることもあります。頸髄損傷を負った当初の私は、外出することに大きな不安を抱え、半ば諦めていました。しかし、セルフヘルプとの出会いによって、社会参加の楽しさや可能性を感じられるようになりました。

旅を実現するためには、支援者の協力が欠かせません。何度も話し合いを重ね、計画を見直しながら、トラブルへの対応、介助者の確保、費用、現地での過ごし方などについて具体的に検討する必要があります。そして、無事に帰ってきて、その経験を報告できるところまでが、私にとっての「旅」だと感じています。

## 旅とともに成長する

兵庫頸髄損傷者連絡会 土田 浩敬

### 1. はじめに

2005年9月14日、私はその日から第二の人生が始まった。当時21歳だった私は、これから先に待ち構えていたであろう、希望に満ちた未来から一変した。闇に包まれ、この先が不透明なものになった。

私はもともと社交的ではなく、友達も決まった友達としか会わなくて、いく場所もいつも決まった場所だった。特に、旅行が好きという訳でもなく、いつも通り、決まった場所で決まった友達と過ごす。どちらかと言うと“安定”を好むタイプの性格だ。それが、今はというと、毎週のように大阪や神戸へと外出して、様々な人と出会っている。そして、人前で自分の生活の様子や、これまでの経験したことや気持ちの変化を話したりもする。過去の自分であれば、到底ありえないことだ。なぜそんなにも変わったのか。自分でもわからない。ただ一つ、感じていることがある。それは、外へ出て人に会うことが楽しいということだ。過去の私であれば、人と出会うことが面倒くさいことだと思っていた。しかし今は、人と出会うことに対して、ワクワク感だったり、楽しいと思う気持ちが大きい。そして、電車から眺める風景や、いく先での美味しい食事を楽しむことで、更に外へ出たいと思えるようになったのだ。

これらの要素が詰まっていることが「旅」だ。旅先では多くの人々に出会い、美しい景色を堪能し、美味しい食事を楽しむ。まさに、先程私が述べた内容が含まれている。そして「旅」は、私自身を成長させてくれる。自立生活のキーワードである“自己選択・自己決定・自己責任”この三つの要素が含まれていると考えている。自立生活の縮図といっても過言ではない。そんな「旅」を経験することで、また一つ私自身が成長したように感じるのである。

### 2. 私を変えた三つの旅

2011年、私は東京旅行へ行くことになった。それは、先輩頸損であるMさんからの誘いを受けたことがキッカケであった。しかし、ただ単に東京旅行に

行く訳ではなかった。それは、後になって少し後悔した。なぜかというと、Mさんから四つのミッションを言い渡された。第一、同行する介助者を自分で確保すること。第二、計画的に行動すること。第三、目的を持って行動すること。第四、旅を楽しむこと。生半可な考えだった私は、どのミッションも苦痛でしかなかった。その中でも、特にハードルが高いミッションはというと、介助者を探すことであった。どこにも伝手のない私が、介助者を探すことはとても大変だった。数少ない知り合いに、介助者として旅行へ行ってくれないか聞いてみたが、結果はというとあっさり断られてしまった。私は、頸髄損傷者でC4の完全損傷なので、手足を全く動かすことができない。全てのことをお願いするのだから、正直なところ、他人に介助のお願いをするのが心苦しく感じてしまい、少し遠慮気味になっていた。そんな私の様子を見かねて、妹と一緒に東京旅行へ行ってくれることになった。私は、全てのミッションをクリアすることは出来なかった。しかし、私にとって介助者探しは、今になってとても意味のあることとなっている。東京旅行は楽しかったが、とてもしんどい旅行でもあった。



帰宅で安堵の様子

2018年、ロサンゼルス。私にとって憧れの場所だ。それは私の“好き”がたくさん詰まった場所だからだ。私は、小学6年生の時からバスケットボールの最高峰である「NBA」の放送をテレビで観てきた。そ

の中でも、ロサンゼルスに本拠地を置く「ロサンゼルス・レイカーズ」の大ファンだ。中でもレイカーズのレジェンド、「コービーブライアント」のプレイに心を奪われてしまったからである。私が頸髄損傷者になった当初、気持ちが落ち込んでいる時も、彼のスーパープレイをみて何度も励まされた。ロサンゼルスに行くなんて夢のようだ。頸損者数名で行く計画だった。私は、せっかくロサンゼルスに行くのだから、みんなとは別のホテルを予約して、別行動をとった。もちろんレイカーズの試合を見るためだ。



間近で大迫力の試合に大興奮

飛行機の手配、ホテルの予約、介助者探しも比較的スムーズにいったが、いざロサンゼルスに行ってみると文化の違いに驚かされた。それは、いい面も悪い面もさまざまあったが、時間にアバウトなところは、最後まで慣れることはなかった。ただ、レイカーズの試合は接戦を勝利で納め、最高の結果でロサンゼルス旅行を締めくくった。

2023年、沖縄の海でマリナクティビティを体験。2020年から猛威を振るったコロナウイルス。2022年あたりから、少しずつ外出しやすくなってきたが、それでもまだ、制限された世の中の様子であった。そんな状況下において、沖縄でマリナクティビティを体験することができる、という話が舞い込んできた。マリナクティビティ？バナナボート？私は、半信半疑であった。マリナクティビティを体験することができるという情報は、またM先輩から聞いたものだ。私は、M先輩が完全四肢麻痺という身体でバナナボートを楽しんでいる姿を、動画で見せて

もらった。私は身体中鳥肌が立った。ちなみにこの鳥肌は、尿が詰まったとか便意を感じたとかではないので、ご安心ください。そう、完全四肢麻痺者の可能性が、さらに広がったのだ。

2022年頃から、再び忙しい日々が戻ってきた。私は気が付いた時には、バナナボートに乗っていた。初めは少し怖かったが、いざバナナボートに乗ってみると、とても気持ちがいい。身体全体で風を切り、時折り波でバウンドするバナナボートはスリル満点であった。



マリナクティビティは私を成長させた

この、マリナクティビティを体験することで、改めてチャレンジする大切さを、身をもって経験した。

### 3. まとめ

私は、頸髄損傷者になって、何もかもが終わったと思った。ただそれは、自分自身の思い込みであって、情報や自分の“やってみたい！”という気持ちと、サポートしてくれる支援者がいれば、なんでもできることを知った。それは、これまでの旅を通して感じたことである。頸髄損傷者になったからこそ、人生を楽しむべきだ、できる時にやりたいことをやっておかないと勿体ないと、旅が私に教えてくれたのだ。

これからも、まだまだ「旅」は続くだろう。それは人生という旅が、私の心を豊かにしてくれるはずだ。

## 旅が私に気づかせてくれたこと

兵庫頸髄損傷者連絡会 島本 卓

私は 2006 年 12 月、交通事故によって頸髄を損傷し、C4 完全四肢麻痺となりました。それまで当たり前だった「体を動かす」ということが、ある日突然できなくなりました。事故直後は、自分の身に何が起きたのか、すぐには理解できませんでした。しかし時間が経つにつれて、現実が少しずつ目の前に迫ってきました。

「これからどんな生活を送ればいいのか」

「何を楽しみに生きていけばいいのか」

「この先、自分の人生はどうなってしまうのだろう」そんなことばかりを考える毎日でした。生活への不安もありました。介助が必要な生活、今後の仕事、将来のこと。考えなければならないことはたくさんありました。けれど、それ以上に大きかったのは、「この体で、これからどう人生を歩んでいくのだろうか」という漠然とした不安でした。

事故前には、海外へ行くことも、自由に移動することも、特別なことではありませんでした。しかし、障害を負った私にとって、「移動する」ということは、一つひとつ確認と準備が必要なものへと変わっていったのです。

そんな私が、この体になって初めて海外を旅したのは、2014 年のことでした。同じ頸髄損傷の先輩に誘っていただき、シンガポールを訪れることになったのです。正直、不安だらけでした。

「この体で飛行機に乗れるのだろうか」

「長時間の移動で体調を崩さないだろうか」

「現地でトラブルが起きたらどうしよう」

「褥瘡は大丈夫か」

「排便コントロールがうまくいかなかったらどうしよう」

障害を負ってからの外出には、常に“もしも”がついて回ります。それが海外となれば、なおさらでした。医療的な不安だけではなく、飛行機の手配、宿泊先の確認、バリアフリー環境の調査、介助者探しなど、旅に出る前から考えなければならないことが数多くありました。

今でこそ、少しずつ情報も増えてきていますが、当時は障害者の海外旅行に関する情報もまだ少なく、「本当に行けるのだろうか」という気持ちは最後まで消えませんでした。それでも、私の背

中を押してくれたのは、「経験豊富な先輩と一緒にいる」という安心感でした。そして何より、「きっと何とかなる」という気持ちでした。

今振り返ると、あの時、勇気を出して一步を踏み出せたことが、その後の人生を大きく変えるきっかけになったのだと思います。シンガポールに到着した時、私は初めて見る景色と、言葉の通じない環境の中にいました。当然、不安はありました。言葉が通じないことへの不安。自分自身の体調管理への不安。周囲に迷惑をかけてしまうのではないかという不安。

当時の私は、まだ障害を負った自分自身を、十分に受け入れきれていなかったのだと思います。日本では、周囲の視線が気になることもありました。車椅子に乗っているだけで見られているように感じたり、何かをお願いするたびに「申し訳ない」という気持ちになったりすることもありました。だからこそ、海外ではどのように見られるのだろうかという怖さもありました。

しかし、現地に着くと、その不安は少しずつ変わっていきました。街の人たちは、私を見ると自然に笑顔を向けてくれました。言葉が通じなくても、ジェスチャーや表情で「大丈夫?」「何か手伝おうか?」と声をかけてくれたのです。



そこには、「障害者だから特別に接する」という空気ではなく、「困っていたら助ける」という自然な優しさがありました。私は、その温かさに本当に救われました。

もちろん、日本にも優しい人はたくさんいます。実際、これまで多くの人に支えられて生きてきました。けれど、シンガポールで感じたのは、「障害があることを特別視しない自然さ」でした。それは私にとって、とても大きな衝撃でした。その時、私は強く感じました。「私は、“障害者”という枠だけで生きているわけではない」と。

もちろん、障害があることで、できないことはあります。しかし、それは障害のある人だけではありません。誰にでも、できることと、できないことがあります。そう思えた時、私の中で「障害」に対する捉え方が少し変わりました。

そして、人の温かさと同じくらい印象的だったのが、街の環境でした。シンガポールでは、障害のある人だけのためではなく、「誰もが使いやすい」ことを前提に環境が整えられていました。例えば、日本で電車に乗る時には、駅員さんに声をかけ、スロープを準備してもらう必要があります。そのため、自分が「今、この電車に乗りたい」と思っても、すぐには乗れないことがあります。駅員さんが悪いわけではありません。むしろ、丁寧に対応してくださる方ばかりです。けれど、そこにはどうしても、「お願いする側」と「対応する側」という関係が生まれます。そのたびに、「迷惑をかけていないだろうか」「急がせてしまっていないだろうか」と、気を遣ってしまうこともありました。シンガポールでは、「この電車に乗りたい」と思った時、電車とホームの間にほとんど隙間がなく、スロープを使わなくてもスムーズに乗車することができました。



その時、私は初めて、「これが本当の意味での移動の自由なのかもしれない」と感じました。もし、そうした環境を知らなければ、サポートを受

けながら移動することが当たり前だと思っていたかもしれません。もちろん、支えてもらうこと自体が悪いわけではありません。誰かに助けてもらうことは、人が生きていく上で自然なことですが、「誰かに頼まなければ移動できない」という状況が続くと、知らないうちに自分の中に遠慮や不安が積み重なっていくのではないかと感じました。海外で見た環境には、障害があっても自由に行動できる空気がありました。

実際にその場に行き、自分の目で見て、肌で感じたことで、私は大きく価値観が変わりました。それまでも少しずつ外には出ていました。その環境を見た瞬間、「日本にもこういう環境があれば、もっと外に出たい」と自然に思えたのです。

「出なければいけない」ではなく、「出たい」と思えたことが、私にとってとても大きな変化でした。日本では、「降りた駅にスロープがなかったらどうしよう」と不安になることがあります。それが、外出する時の大きな不安要素の一つなのかもしれません。一方で、シンガポールでは、そうした不安をほとんど感じませんでした。自分たちが使いやすい環境が、当たり前そこにあります。ただそれだけで、人は安心して外へ出ることができるのだと思います。

そして、その安心感は、移動だけではなく、「自分らしく生きること」にもつながっていくのだと感じました。この旅を通して、私はたくさんの方のことを学びました。そして何より、この障害を負ったからこそ、人の優しさに気づくことができました。以前の私は、「できなくなったこと」ばかりに目を向けていました。

しかし旅を通して、「失ったもの」だけではなく、「この体になったからこそ気づけたもの」もあるのだと感じられるようになりました。もちろん、今でも大変なことや、不安になることもあります。それでも、あの旅を経験したことで、「これからの人生も、きっと楽しんでいける」と思えるようになりました。

旅は、私に新しい景色を見せてくれただけではありません。これから自分がどう生きていくのか、その人生の“楽しみ方”そのものを、教えてくれたのです。

## 旅（チャレンジ）が自分を変えた

兵庫頸髄損傷者連絡会 伊藤 靖幸

### はじめに

自分は、2006 年の 20 歳の時にこの身体になりました。受傷して約 1 年 10 ヶ月で実家を住宅改修して両親との生活が始まりました。実家での生活は、ホームヘルパー、訪問看護、デイサービスなどのサービスを利用してあまり不自由なく生活していました。旅をすることで、身体と心がどう変わってきたのか書いていきたいと思います。

### 初めての外泊

実家暮らしの生活を送っていて、同じ頸髄損傷者の知り合いの方に 7 月に大阪でイベントがあるから一緒に行かない？と声をかけられました。まだ、デイサービスと病院の往診ぐらいしか外出機会がなく、“いや～近所もまだ出たことないし～”とか“電車も乗ったことないし～”となにかと理由をつけて断っていました。正直行って怖かったんです。行った先で便がもれたらとか体調が悪くならどうしたらいいかわからなかったから恐かったんです。でも知り合いの方に“大丈夫、大丈夫。行ったらなんとかなるから”と半分強引に連れて行かれました笑。行った先では同じ頸髄損傷者がおられて、あごで操作する車椅子を始めて見てビックリしました。それ以外にも働いている事やアクティブに外出していることなども驚きで、生の情報を聞けるという事は大きかったです。



A さんとの出会い

### 沖縄旅行

2015 年、沖縄で行われた第 30 回リハ工カンファレンスを聞きに行くため初めて飛行機に乗りました。飛行機搭乗経験のある先輩が一緒に行ってくれたことで大きなトラブルはありませんでしたが、めちゃくちゃ怖かったです。何が怖かったのかは分かりませんが怖かったです。リハ工カンファレンスは学ぶことも多く良かったですし、初めての沖縄も満喫しました。テレビでしか見たことがなかった首里城や初めて会う頸髄損傷者とのお話、現地の食事などすべてが初体験で楽しかったです。初めての飛行機は自信と次にチャレンジする活力をもらったように思います。

### 香港旅行



初飛行機

2016 年、香港に行きました。飛行機の乗車方法は分かれますが、車椅子のバッテリーを説明することや飛行機搭乗用の車椅子移乗などまだ怖かったです。しかも海外。日本との違いや言葉が通じるのか、長時間の飛行機、さらに 3 泊 4 日ということで排便をどうしたらいいのか悩みました。ここでも経験者の声は強かったです。一つ一つの問題に対して助言をもらい、いろんな不安はありましたが解決していき楽しい香港旅行が出来ました。同じアジアでバリアフリーや文化の違いを感じる事が出来てよかったです。

## 音楽祭出場

いくつもの旅を重ねる中で活動範囲が広がり、その経験を通じて事故をきっかけに始めた音楽活動も大きく発展していきました。2017年、宮古島で行われた音楽祭に出場しました。音楽祭に出場することは大変ではなかったのですが、アクセスが大変でした。電動車椅子が大きくて宮古島へは持っていけないことが分かり、沖縄まで電動車椅子で行き、沖縄から小型の手動車椅子に乗り換えて宮古島に行きました。最初は自分の車椅子の方が演奏しやすくていいパフォーマンスが出来るか不安でした。でも、行かない理由はいくらでも作れると頭を切り替えて、実現したい目的を果たすための方法を考えて実行しました。結果は、手動車椅子でも、この状態の最高の演奏が出来たんじゃないかと思います。この音楽祭出場をきっかけに一人での音楽活動を本格的に始めていくことになりました。



音楽祭出場

## ギター補助装置

旅や新しい挑戦を重ねる中で、物事に敏感に気づけるようになり、以前より行動力も増しました。2017年のリハエカンファレンスで「脳神経系疾患障害者のギター演奏支援装置を使った練習によるリハビリテーション効果」というテーマでインタラクティブセッションが行われると知り、事故前からギターを触っていた経験があり見に行きました。担当の方に直接、被験者になりたいと申し出ました。その結果、翌年から実際に協力する機会をいただき、新たな挑戦へと一歩踏み出すことになりました。

## まとめ

旅（チャレンジ）を重ねることで、自分の視野は大きく広がり、それに伴って人生の選択肢も少しずつ広がっていきます。最初はどううまくできなくても、それは決して恥ずかしいことではなく、自分を責める必要もありません。単に「知らなかった」「経験していなかった」だけのことです。だからこそ、ほんの少し勇気を出して一歩踏み出し、新しい世界を知ることができれば、「次はあれもできるかもしれない」「これにも挑戦してみたい」と前向きな気持ちが自然と生まれてきます。もちろん、その過程で失敗したり、恥ずかしい思いをしたりすることもあるでしょう。しかしそれは、確実に前へ進んだ証であり、成長の一部です。

そして、自分が旅やチャレンジを通して得た経験を、これから何かに挑戦したいと思っている人に伝えることで、その人の背中をそっと押すことができると持っています。自分の旅（チャレンジ）は趣味の音楽活動から始まりました。皆さんも好きなこと、やってみたいことがあると思います。そこから始めて見てはいかがでしょうか。そして、話を聞いた誰かが「自分も何かやってみよう」と感じ、小さな一歩を踏み出すきっかけになる——そんな循環が生まれていくことこそが、旅やチャレンジの持つ大きな意味だと思います。



プールにも挑戦

## 講演会Ⅱ

支えられる社会から、支え合う社会へ

－ピアサポートが広げる自立と社会参加の可能性－

に寄せて

## 頸髄損傷者におけるピアサポートの重要性

全国頸髄損傷者連絡会 鴨治 慎吾

はじめに

頸髄損傷は、交通事故や転落事故などによって頸髄が損傷し、四肢麻痺や感覚障害や自律神経失調症などを引き起こす重度の障害である。受傷後は身体機能の低下だけでなく、仕事や家庭生活、社会参加にも大きな影響を及ぼす。そのため、身体的なりハビリだけではなく、精神的・社会的支援が重要となる。当会では、頸髄損傷という障害を持った者がその自分が経験、情報などを用いて、新たに障害となってしまう者や情報不足等で困っている者などに対しての支援方法の一つとして「ピアサポート」を行っている。

ピアサポートは、同じ障害や経験を持つ当事者同士が支え合う活動である。頸髄損傷者にとって、同じ立場の人からの助言や励ましは大きな意味を持つ。

### 頸髄損傷者が抱える課題

頸髄損傷者は、受傷後にさまざまな問題に直面する。身体的には、四肢麻痺や排泄障害、褥瘡、慢性的な痛みなどがあり、多くの場合で介助が必要となる。突然身体が動かなくなることで、将来への不安や喪失感、抑うつ状態に陥ることも少なくない。

さらに、退院後には就労の難しさや経済的不安、外出機会の減少による社会的孤立などの問題も生じる。家族にも介護負担がかかり、本人だけでなく家族全体への支援が必要となる。

また、近年は医療技術の進歩により、人工呼吸器を使用する高位頸髄損傷者や医療的ケアを必要とする重度障害者であっても地域で生活できるようになってきた。しかし、地域によって介助制度や支援体制に差があり、必要なサービスを十分に利用できない人も少なくない。制度が存在していても、その制度を知らなければ活用することはできず、情報不足が生活の質を大きく左右する現実がある。

特に受傷直後の当事者や家族は、医療や福祉制度、介助サービス、住宅改修、就労支援などについて知識を持たないことが多い。その結果、本来であれば

地域で自立した生活を送ることが可能であっても、「もう以前のような生活はできない」「施設で生活するしかない」と考えてしまう場合もある。こうした情報格差を埋める役割としても、ピアサポートは重要な意味を持っている。

### ピアサポートの役割と重要性

#### 1. 精神的支えになる

頸髄損傷を受傷した直後は、「これからどのように生きていけばよいのか」という強い不安を抱える。そのような時、実際に障害を持ちながら生活している先輩当事者の存在は大きな希望となる。

例えば、車椅子で仕事をしている人や家庭生活を送っている人の話を聞くことで、「自分にもできるかもしれない」という前向きな気持ちを持つことができる。これはリハビリへの意欲向上にもつながる。

また、頸髄損傷者同士だからこそ共有できる感情や悩みがある。家族や医療従事者がどれだけ寄り添っても理解しきれない不安や葛藤を、同じ経験を持つ仲間は自然に受け止めることができる。「自分だけではない」という実感は、絶望感を和らげ、生きる力を取り戻す大きなきっかけとなる。

#### 2. 実生活に基づく助言が得られる

医療者からは治療やリハビリについて説明を受けることができるが、日常生活の細かな工夫については、実際に生活している当事者から学ぶことが多い。

例えば、車椅子の工夫、排泄管理の方法、外出時の注意点、介助者との付き合い方、福祉制度の利用方法などは、経験者だからこそ具体的に伝えられる情報である。このような「生活の知恵」は、退院後の生活に大きく役立つ。

さらに、住宅改修の方法や福祉機器の選び方、公共交通機関の利用方法、旅行や余暇活動の楽しみ方なども重要な情報である。こうした情報は教科書や制度資料には載っていないことも多く、実際の経験に基づく助言だからこそ高い実用性を持っている。

### 3. 社会的孤立を防ぐ

頸髄損傷者は外出機会が減少し、人との交流が少なくなりやすい。そのため、孤独感を抱える人も多い。ピアサポートを通じて仲間と交流することで、精神的な孤立を防ぐことができる。近年では、対面だけでなく SNS やオンライン交流も広がっており、地域を超えてつながることが可能となっている。

また、交流を通じて社会参加への意欲が生まれることも多い。講演会や交流会、スポーツ活動、旅行企画などに参加することで、新たな仲間や目標を見つけることができる。人とのつながりは、地域生活を継続する上で大きな支えとなる。

### 4. 家族支援にもつながる

頸髄損傷では家族の介護負担も大きい。同じ立場の家族同士が交流することで、介護方法や悩みを共有でき、精神的負担の軽減につながる。家族への支援は、本人の生活の安定にも重要である。

特に受傷直後の家族は、突然の出来事に戸惑い、将来への不安を抱えていることが多い。先輩家族の経験談を聞くことで、今後の生活の見通しを持つことができ、必要以上に悲観的になることを防ぐことができる。

### 5. 自立と社会参加を促進する

ピアサポートは単なる相談活動ではなく、自立と社会参加を促進する役割も担っている。頸髄損傷者の中には、受傷後に就職や復職を果たした人、結婚や子育てを実現した人、スポーツや芸術活動に取り組む人、さらには海外旅行や社会活動に挑戦する人もいる。

こうした先輩当事者との出会いは、「障害があっても挑戦できる」という希望につながる。支えられる側だった人が、やがて支える側のピアサポーターとして活動するようになることも少なくない。この循環こそが、当事者団体が持つ大きな力であり、地域社会における共生の実現にもつながっている。

### ピアサポートの課題

一方で、ピアサポートには課題もある。地域によって支援体制に差があり、十分な支援を受けられない場合がある。また、経験談が個人の考え方に偏る可能性もあり、医療的に正しい情報との区別が必要である。

さらに、支援を行うピアサポーター自身にも身体的・精神的負担がかかるため、継続的な支援体制づくりを行っていかねばならない。

加えて、病院と地域をつなぐ仕組みが十分ではない地域も存在する。退院前からピアサポーターと出会う機会を確保し、医療機関・福祉機関・当事者団体が連携して支援を行う体制づくりが求められている。また、オンライン相談や遠隔地への支援など、新しい形のピアサポートの充実も今後の課題である。

頸髄損傷者にとって、ピアサポートは大きな心理的支えとなり、社会参加や自立への意欲を高める重要な役割を果たしている。同じ経験を持つ仲間だからこそ分かり合える苦しみや不安があり、その共感には医療や福祉だけでは補えない価値を持つ。

当事者・支援者・医療機関や地域福祉との連携を強化し、より多くの頸髄損傷者が継続的にピアサポートを受けられる環境を整えることが重要である。そして、支えられる人が支える人へと成長し、当事者同士が互いの可能性を引き出しながら地域で活躍できる社会を実現していくことが、今後のピアサポート活動に求められる大きな使命である。

## ピアサポートが広げる自立と社会参加の可能性

—頸髄損傷者の経験から考える「支え合う力」—

全国頸髄損傷者連絡会 宮野 秀樹

はじめに—命が助かることと人生を取り戻すことは違う

頸髄損傷は、ある日突然、それまで当たり前だった身体機能や生活を大きく変えてしまう障害である。交通事故やスポーツ事故、転倒事故などによって受傷した多くの人は、病院のベッドの上で「これからどう生きていけばいいのか」「家族に迷惑をかけるだけではないのか」「もう以前のような人生は送れないのではないのか」と深い不安や絶望を経験する。

近年の医療技術の進歩は目覚ましく、数十年前であれば命を救うことすら難しかった重度の頸髄損傷者も、高度な救命医療やリハビリテーションによって地域生活へ戻ることが可能となった。人工呼吸器を使用する人や、ほぼ全介助を必要とする高位頸髄損傷者であっても、地域で暮らし、社会参加することは決して特別なことではなくなりつつある。

しかし、命が助かることと、人生を取り戻すことは同じではない。

退院後、多くの頸髄損傷者は新たな壁に直面する。介助制度の利用方法、住宅改修、福祉機器の選択、移動手段の確保、就労、家族との関係、人との付き合い方など、生活のあらゆる場面で新たな課題が生じる。医療機関では身体機能の回復に関する知識は得られるが、「頸髄損傷者としてどう生きるか」という問いへの答えは教科書の中にはない。

### 孤立が奪うもの—自己信頼の喪失

特に人工呼吸器を使用する人や重度の肢体不自由を抱える人、その家族は地域社会の中で孤立しやすい状況に置かれている。必要な制度やサービスがあっても情報が届かず、利用方法が分からないまま困難を抱え続けることも少なくない。外出の機会が減り、人とのつながりが失われることで、「自分には何もできない」「社会の役に立てない」という思い込みに陥ってしまうこともある。

しかし、本当に失われているのは身体機能だけな

のだらうか。

多くの頸髄損傷者が直面する最大の問題は、身体機能の障害そのものではなく、「自己信頼」を失ってしまうことにある。

人は、自分を信じる力を失うと新しいことに挑戦できなくなる。失敗を恐れ、行動を控え、自ら可能性に蓋をしてしまう。そして、その状態が続けば社会との接点を失い、孤立へと向かってしまう。

頸髄損傷者が尊厳を奪われることなく、一人の人間として心豊かに生きるためには、この自己信頼を取り戻すことが必要である。そして自己信頼は、困難を乗り越えた経験や小さな成功体験、そして人との出会いによって育まれていく。

### ピアサポートとの出会い—希望を取り戻すきっかけ

そこで重要な役割を果たすのがピアサポートである。ピアサポートとは、同じような経験を持つ当事者同士が支え合う活動である。頸髄損傷者にとってのピアサポートは、単なる相談活動ではない。同じ障害を持ちながら地域で暮らし、働き、恋愛し、結婚し、子育てをし、旅をし、社会参加している仲間との出会いそのものである。

受傷直後の人が、同じ頸髄損傷者が自立生活を送りながら活躍している姿を見るとき、「自分にもできるかもしれない」という希望が生まれる。

制度の説明だけでは人は変わらない。

しかし、「首から下が動かない人が海外を旅している」「人工呼吸器を使用しながら地域で暮らしている」「重度の障害がありながら働いている」「家庭を築き、地域活動に取り組んでいる」という現実を目の当たりにしたとき、人は初めて自分自身の可能性を信じることができるのである。

### 当事者だから伝えられること

ピアサポートの本質は、答えを与えることではない。「こうすれば良い」と一方的に教えるのではなく、

「なぜ困っているのか」「何が障壁となっているのか」を共に考え、その人自身が答えを見つける手助けをすることである。

また、頸髄損傷者にとってピアサポートが重要である理由の一つに、「同じ経験をした者にしか理解できない現実」がある。

医師や看護師、理学療法士、作業療法士、相談支援専門員などの専門職は、医療や福祉の専門知識を持ち、当事者を支える上で欠かせない存在である。しかし、頸髄損傷という障害を抱えながら生活し、社会参加し、失敗と成功を積み重ねてきた経験そのものは、当事者にしか語りすることができない。

介助者との信頼関係の築き方、外出先での予期せぬトラブルへの対応、障害を受け入れられない気持ちとの向き合い方、家族との関係の再構築などには、教科書的な正解は存在しない。だからこそ、同じ経験を持つ仲間の言葉には大きな力があるのである。

#### 支えられる側から支える側へ

セルフヘルプとは、共通の経験を持つ仲間同士が出会い、それぞれの経験を共有しながら、自分自身の生き方を見出していく活動である。そこでは支援する側と支援される側が固定されているわけではない。今日支援を受けた人が、数年後には新たな当事者を支える側へと成長していく。

さらに、ピアサポートには「希望を見せる力」がある。

受傷したばかりの人にとって、数年後、十数年後の自分の姿を想像することは難しい。しかし、同じ障害を持ちながら働いている人、家庭を築いている人、地域活動に取り組んでいる人、趣味や旅行を楽しんでいる人と出会うことで、「人生は終わったわけではない」と実感することができる。

人は言葉だけでは変わらない。だが、人の生き方に触れたとき、自分の未来を信じることができる。

そのきっかけを生み出すのがピアサポートであり、頸髄損傷者の自立と社会参加を支える大きな原動力なのである。

「決して独りではない」を伝えるために

そして、支えられていた人が、やがて支える側へと回っていく。この循環こそがピアサポートの最大の価値である。

「決して独りではない」。

そのメッセージを受け取った人が、今度は別の誰かにその言葉を届ける。そうしたつながりの連鎖が、多くの頸髄損傷者の人生を支えてきた。

頸髄損傷者に必要なのは、「かわいそうだから助ける」という支援ではない。同じ経験を持つ仲間との出会いを通じて、自らの可能性を再発見し、自分らしい人生を主体的に歩いていく力である。

だからこそ、ピアサポートは頸髄損傷者の自立と社会参加を支える重要な基盤なのである。そして、それは障害を持つ人だけでなく、誰もが支え合いながら生きる社会を実現するための大切な力でもある。

**5分割して利用する部屋へ移設や撤去が容易。**

据置リフト マキスカイ440 / イージートラック FS セット



組立式で  
使用場所の変更も可能!

**揺れにくく、動かしやすい。**

床走行リフト マキツインシリーズ



低床型はシャーシ高  
6cm!

**わずか15.1kg!\***

電動車いす クイッキー  
Q50R カーボン



簡単に  
折り畳める!

\*バッテリー無しの場合/  
当社独自による計測値

**全幅 52cm!**

電動車いす クイッキー  
Q300M ミニ 中輪駆動



座面昇降や  
その場で回転も可能!

**ABILITIES アビリティーズ・ケアネット株式会社 人間に無能力者はいない**

(お問合せはこちらまで) 阪神営業所 TEL.0798-37-1971 **あるのは能力者だけだ**

私たちは心身に障害のある人たちの自立と社会参加を実現するため、1966年から「保障よりも働くチャンス」をスローガンに活動を続けてきた団体・企業です。障害者雇用促進法や障害者差別解消法の実現にも深く関わってきました。

**訪問介護の『人手不足』『業務過多』丸ごと解決しませんか？**

SOBAEは、訪問介護に特化したコンサルティングと専用ソフトで、  
事業所の安定経営を強力にサポートします！

**訪問介護コンサル**

管理職10年以上の実務経験者の伴走！

- ✔ 介護記録の効率化
- ✔ 業務フローの整理と改善提案
- ✔ 処遇改善・特定事業所加算取得支援
- ✔ BCP・虐待防止等の義務化要件の助言

**Sobae\_Works**

シフト作成から個別送付まで時間を削減！

- ✔ 全体・個別状況を把握しやすいUI/UX
- ✔ 労働日数や時間を把握しながら調整ができる
- ✔ 加算取得にも一部対応
- ✔ 完成したシフト表は個別に出力可能

**本講演会の参加者様 限定特典！**

無料経営相談（60分）実施中！

または、ソフトウェア初期費用20%OFF！

まずはウェブサイトへ！

SOBAE



〒669-1531  
兵庫県三田市天神1丁目5番33号  
三田市商工会館3階 305号  
☎ 080-6306-6286  
✉ info@sobaeworks.com





— 100周年の感謝を胸に  
これからもあなたのそばに —



“よろず相談所”  
**但陽信用金庫**

本 店	兵庫県加古川市加古川町溝之口 772 079-422-7721
生野本部	兵庫県朝来市生野町口銀谷 511 079-679-2253



2026 年度 全国頸髄損傷者連絡会総会 資料

## 2025年度 本部活動報告

[2025年]

- ・4月 全国機関誌「頸損144号」発行（編集会議4回）
- ・4月5/6日 DPI日本会議・常任委員会（オンライン）
- ・4月15日 全国脊髄損傷者連合会との意見交換会（オンライン）
- ・4月15日 全国総会・東京大会打ち合わせ（オンライン）
- ・4月21日 第22回ケアリフォームシステム研究会全国大会in埼玉（大宮ソニックシティ市民ホール）
- ・5月15日 全国頸髄損傷者連絡会・会計監査（オンライン）
- ・5月18日 香川支部研修会講師（オンライン）
- ・5月20日 全国脊髄損傷者連合会との意見交換会（オンライン）
- ・5月20日 全国総会・東京大会打ち合わせ（オンライン）
- ・5月25日 ピアサポート（愛知県名古屋市）
- ・5月28日 介護リフト調査会議（オンライン）
- ・5月31日 「電動車椅子で巡る世界一周報告会～準備編～」  
日本リハビリテーション工学協会・関西支部セミナーに登壇（KOBЕ Co CREATION CENTER）
- ・5月31/6月1日 DPI日本会議・全国集会（オンライン）
- ・6月3日 全国総会・東京大会打ち合わせ（オンライン）
- ・6月7/8日 第52回全国頸髄損傷者連絡会総会（東京都日本橋ライフサイエンスハブ）
- ・6月21日 第15回To be yourself「災害」Part1（オンライン）
- ・6月27日 介護リフト調査会議（オンライン）
- ・6月29日 ピアサポート（兵庫県神戸市）
- ・7月2日 全国脊髄損傷者連合会との意見交換会（オンライン）
- ・7月9日 ピアサポート（東京都東久留米市）
- ・7月14日 全国総会・東京大会打ち合わせ（オンライン）
- ・7月20日 講演会「挑戦は終わらない-車椅子ユーザーとして切り拓く未来-」（大阪府大阪市）
- ・7月22日 全国脊髄損傷者連合会との合同イベント打ち合わせ（オンライン）
- ・8月5日 介護リフト調査会議（オンライン）
- ・8月8日 介護リフト調査会議（東洋大学赤羽キャンパス）
- ・8月9/10日 DPI日本会議・常任委員会（オンライン）
- ・8月30日 介護リフト調査会議（オンライン）
- ・9月6日 ピアサポート（大阪府大阪市）
- ・9月7日 全国頸損代表者会議（大阪市立青少年センター&オンライン）
- ・10月4日 第16回To be yourself「人権」Part1ハラスメントを学ぶ（オンライン）
- ・10月6日 全国脊髄損傷者連合会・省庁交渉2025参加（参議院議員会館）
- ・10月7日 介護リフト調査会議（オンライン）
- ・10月18/19日 DPI日本会議・常任委員会（オンライン）
- ・10月18日 介護リフト調査会議（新大阪丸ビル新館会議室）
- ・10月19日 介護リフト調査会議（新大阪丸ビル新館会議室）
- ・10月25日 全国頸髄損傷者連絡会&日本リハビリテーション工学協会 連携セミナー  
「電動車椅子で巡る世界一周報告会～旅の魅力編～」に登壇（ANCHOR KOBЕ）

## 第 53 回全国頸髄損傷者連絡会総会・兵庫大会

---

- ・10月25日 「骨格提言」の完全実現を求める大フォーラム2025賛同
- ・10月26日 ピアサポート（兵庫県養父市）
- ・10月30日 全国脊髄損傷者連合会との合同イベント打ち合わせ（オンライン）
- ・10月31日 介護リフト調査会議（オンライン）
- ・11月9日 第21回 四国頸損の集い2025（愛媛県四国中央市）
- ・11月22日 2025年度全国頸髄損傷者連絡会・全国脊髄損傷者連合会合同学習会企画  
ユニバーサルツーリズムについて（大分県別府市）
- ・11月27日 介護リフト調査会議（オンライン）
- ・11月29/30日 第14回DPI障害者政策討論集会（戸山サンライズ）
- ・11月30日 第2回せき損セミナー in OKINAWA（沖縄県ラグナガーデンホテル）
- ・12月13日 第17回To be yourself「人権」Part2ハラスメントを学ぶ（オンライン）
- ・12月16日 ピアサポートinせき損センター（福岡県総合せき損センター）
- ・12月19日 介護リフト調査会議（オンライン）
- ・12月20/21日 DPI日本会議・常任委員会（オンライン）
- ・12月21日 ピアサポートin国リハ（国立障害者リハビリテーションセンター）

### [2026年]

- ・1月 全国機関誌「頸損145号」発行（編集会議4回）
- ・1月22日 介護リフト調査会議（オンライン）
- ・1月24日 第9回災害リハビリテーション支援研修会（オンライン）
- ・2月14/15日 DPI日本会議・常任委員会（オンライン）
- ・3月1日 全国頸損代表者会議（神戸市中央区文化センター&オンライン）
- ・3月2日 介護リフト調査会議（オンライン）
- ・3月6日 脊髄損傷者の移乗用リフト調査&移乗用リフト給付自治体調査開始
- ・3月14日 全国頸髄損傷者連絡会&日本リハビリテーション工学協会 連携セミナー  
「電動車椅子で巡る世界一周～世界一周から見えた課題と可能性～」（東京都練馬区）
- ・3月17日 全国総会・東京大会打ち合わせ（オンライン）
- ・3月27日 介護リフト調査会議（オンライン）
- ・3月29日 シンポジウム「障がいのある女性に起こる困難を考える」  
（TKPガーデンシティ京都タワーホテル）

### 【日常・継続的活動】

- 全国総会（年1回）、代表者会議（年2回）等を定期的に開催し、問題点の掘り起こし、且つ共有を図り、頸髄損傷者をはじめとする重度障害者の生活向上のための活動を行っている。昨年度は対面とオンライン（Web会議ツール「Zoom」を使用）の併用で開催した。
- DPI 日本会議の会員団体として積極的に参加し、障害者運動全体の中での役割を果たしている。常任委員として副会長・村田恵子氏が常任委員会や分科会に出席している。
- 会員および会員以外の頸髄損傷者が安心して交流できる場を作ることを目的として、毎月第 2 土曜日の 11:30～13:00 にオンラインランチミーティングを開催している。
- 本部運営を円滑に行うため、毎週水曜日の 16:00～17:00 に役員および運営への協力要請に応じてくれる頸髄損傷者メンバーによるミーティングを実施している。

- 日本リハビリテーション工学協会理事（事務局次長・鈴木太氏）等の関係団体役員及びメンバーとして積極的・継続的に活動している。
- 福祉機器開発に際してスタッフの一員として、またはモニター等に積極的に参加し、当事者としての意見発信をしている。
- 電車・バスなど公共交通運営各社との交渉等、障害者の生活圏拡大のための活動に参加している。
- 「東京オリンピック・パラリンピックを機にインクルーシブ社会実現のため」の活動に継続的に参加している。
- 一般社団法人 日本福祉用具・生活支援用具協会（JASPA）が行う ISO 活動における各分科会に委員として事務局長・宮野秀樹氏が出席し協力をしている。
- 全国本部への会員・家族・関係者からの相談・質問への対応をしている。  
各支部からの相談に対して、他の支部の協力も得て、解決への方向を共に探っている。
- 会員・関係者（団体）への情報発信、活動の報告のために、全国機関誌『頸損』を4月・8月・12月の年3回定期的に発行している。機関誌編集のための会議を各号4回行っている。  
その他の資料提供を行っている。  
全支部参加のメーリングリスト等を活用し、情報の相互発信を行っている。
- 重度障害者の生活向上に有益な、調査・研究のためのアンケート調査等への協力を行っている。

## 2025 年度 支部活動報告

### 栃木頸髄損傷者連絡会

2025 年 6 月 29 日 総会

### 東京頸髄損傷者連絡会

[2025 年]

- |             |  |
|-------------|--|
| 6 月 7～8 日   | 全国頸髄損傷者連絡会総会 東京大会（日本橋）                 |
| 7 月 5 日     | 東京都障害者社会参加推進協議会（東京都障害者会館）              |
| 9 月 7 日     | 秋の全国代表者会議（大阪市立青少年センター）                 |
| 10 月 4 日    | 国立障害者リハビリテーションセンター並木祭 出展               |
| 10 月 6 日    | 厚生労働省交渉（参議院会館）                         |
| 10 月 8～10 日 | 第 52 回国際福祉機器展 東京ビックサイト                 |
| 11 月 22 日   | 合同学習会                                  |
| 12 月 18 日   | ニーズ・シーズマッチング交流会 2025（東京都立産業貿易センター浜松町館） |
| 12 月 21 日   | 国立障害者リハビリテーションセンターピアサポート（会議室）          |

[2026 年]

- |          |                              |
|----------|------------------------------|
| 2 月 13 日 | 東京都障害者社会参加推進協議会（東京都障害者会館）    |
| 2 月 16 日 | 東京都障害者団体連絡協議会（都庁第二本庁舎 3 1 F） |
| 3 月 1 日  | 春の全国代表者会議（神戸市立中央文化センター）      |

3月14日 リハ工学協会全国頸損連携セミナー（練馬ココネリ）

- ※ 全国頸損「To be yourself」に参加
- ※ 全国頸損「オンラインランチミーティング」毎月第二土曜に参加
- ※ 各支部交流会及び勉強会等に参加
- ※ メーリングリスト等による情報提供
- ※ 全国総会東京大会の為、各打ち合わせに参加

## 愛知頸髄損傷者連絡会

2025年

- 4月18日 第1回 愛知頸損連絡会実行委員会 (Zoom)
- 5月19日 第2回 愛知頸損連絡会実行委員会 (Zoom)
- 25日 「犬山城の城下町散策」 (犬山市街)
- 6月7日・8日 全国頸髄損傷者連絡会 総会「東京大会」(Zoom 併用)
- 17日 第3回 愛知頸損連絡会実行委員会 (Zoom)
- 22日 第26回愛知頸髄損傷者連絡会年次総会(Zoom・書面併用)
- 7月22日 第4回 愛知頸損連絡会実行委員会 (Zoom)
- 9月9日 第5回 愛知頸損連絡会実行委員会 (Zoom)
- 20日 電車でGO!企画「常滑競艇場に行こう！」(常滑競艇場)
- 10月7日 第6回 愛知頸損連絡会実行委員会 (Zoom)
- 18日 岐阜・愛知 合同バーベキュー懇親会 (オアシスパーク BBQ CANVAS)
- 11月3日 ワインフェスタ2026 (多治見修道院ワイナリー)
- 11日 第7回 愛知頸損連絡会実行委員会 (Zoom)
- 12月7日 忘年会 (木曾路 錦店)
- 16日 第8回 愛知頸損連絡会実行委員会 (Zoom)

2026年

- 1月16日 第9回 愛知頸損連絡会実行委員会 (Zoom)
- 2月17日 第10回 愛知頸損連絡会実行委員会 (Zoom)
- 3月22日 オンライン学習会「海外旅行でネパールへ遊びに行ってきました」
- 24日 第11回 愛知頸損連絡会実行委員会 (Zoom)

## 頸髄損傷者連絡会・岐阜

【2025年】

- 5月18日 オンライン役員会
- 6月7,8日 全国頸損連絡会総会 東京大会
- 6月12日 夢旅人6月号・支部総会の案内
- 7月6日 2025年度頸髄損傷者連絡会・岐阜 総会  
場所 岐阜市役所庁舎内12階 第2研修室

- 8月10日 オンライン役員会
- 9月4日 夢旅人9月号・BBQ懇親会の案内
- 9月7日 ハイブリッド代表者会議
- 10月18日 岐阜・愛知合同「BBQ懇親会」
- 10月30日 夢旅人10月号・忘年会の案内・会費納入のお願い  
機関誌 夢旅人 30号発刊
- 11月29日 忘年会 場所 日本料理 味彩やちぐさ 岐阜県瑞穂市祖父江

**【2026年】**

- 2月12日 夢旅人2月号・2025年度忘年会の報告・2025年度BBQ懇親会の報告
- 3月1日 ハイブリッド代表者会議

## 京都頸髄損傷者連絡会

**【2025年度活動報告】**

- ◆定例会議：毎月1回(原則、第1土曜日)
- ◆「頸損ニュース」発行
- ◆京都障害者防災会議：毎月1回(原則、第2火曜日)
- ◆障害者権利条約の批准と完全実施をめざす京都実行委員会役員事務局会議(不定期開催)
- ◆全国優生保護法問題の全面解決をめざす連絡会全体会議：適宜開催
- ◆旧優生保護法被害者とともに歩む京都の会：適宜開催
- ◆ウィメンズカウンセリング京都職員ステップアップ講座：適宜開催
- ◆DPI 常任委員会：2ヶ月に1回(偶数月開催)
- ◆DPI 女性障害者ネットワーク定例会議：毎月1回
- ◆京都市障害者施策推進審議会(不定期開催)
- ◆京都府障害者施策推進協議会(不定期開催)

**2025年**

- 4月27日 バーベキュー交流会
- 5月17日 定期総会
- 7月1日 文教大学講義
- 7月5日 障害年金業務研修
- 7月8日 文教大学講義
- 8月9日 全国手話通訳問題研究会サマーフォーラム
- 10月12日 伏見区地域交流イベント
- 11月13日 京都市障害者施策推進審議会
- 11月15日 防災対策体験学習会(障害者防災会議との共催)
- 11月17日 京都市障害者基幹支援センター人権啓発講座
- 11月18日 SARC 東京オンライン研修
- 11月19日 京都府障害者施策推進協議会
- 12月17日 京都市交通局要望交渉(JCIL との合同交渉)
- 12月24日 京都市共生社会推進室男女共同参画推進担当意見交換

**2026年**

- 1月10日 障害者のケアする権利を問うシンポジウム
- 1月17日 京都 SARA 支援員養成研修
- 1月28日 京都府男女共同参画課意見交換
- 1月25日 京都デザインフォーラム
- 2月7日 新年会

【2025年度活動】

5月31日・6月1日 DPI 全国集会

6月7日・8日 全国頸髄損傷者連絡会東京大会

9月7日 全国頸髄損傷者連絡会代表者会議

9月28日 関西頸損のつどい

10月6日 全国精髄損傷者連合会・全国頸髄損傷者連絡会省庁交渉

11月29日・30日 DPI 政策討論集会

2026年

3月1日 全国頸髄損傷者連絡会代表者会議

3月29日 全国頸髄損傷者連絡会シンポジウム(京都開催)

## 大阪頸髄損傷者連絡会

### － 2025年度活動総括 －

● 昨年度は、介助者不足の影響により在宅生活者の外出が制限され、活動への参加においては家族の同行に頼る場面が多く見られた。一方で、若い会員が中心となり交流会等の企画・運営を行い、会員内外を問わず、また障害の有無に関係なく多くの方が交流できる機会が生まれた。これらの取り組みは、大阪支部に新たな可能性と活力をもたらしたものと見える。今後も活動を重ねることで、より実りあるセルフヘルプ活動へ発展していくことが期待される。

● 親睦交流企画では、4月に「車椅子で『桜』を見る会」を、藤田邸跡公園および頸損連事務所（あるる内）の2部構成で実施した。支部総会開催前に、若い会員を中心に企画・運営され、会員9名および障害の有無を問わない参加者19名が参加した。6月には、てんしばのTHE BBQ GARDENにて、久しぶりとなるBBQ交流会を開催し、32名の参加があった。7月には、「ビアホール交流会」をニユートーキョー第一生命ビル店にて実施し、14名が参加した。8月には、オンラインで「EXPO2025体験シェア会」を開催し、14名が参加した。車いすで訪れる万博に関するリアルな情報交換が行われた。9月には、大阪・京都・兵庫の3府県合同交流会として「関西頸損のつどい」（第2回）を開催した。兵庫支部の企画により、明石の魚の棚商店街を散策し、明石市立天文科学館でプラネタリウムを楽しんだ。12名が参加し、支部間の良好な交流が図られた。10月には、「地域交流会@奈良」を大和郡山市の三の丸会館にて実施した。2月には、初の女性限定イベント「女子頸損の悩み」をオンラインで開催し、10名の女性が参加した。また、「新年会」は実行委員会形式で企画・準備を行い、大阪公立大学作業療法学専攻・理学療法学専攻の学生の協力を得ながら進めた。当日は全体で33名が参加した。今年は従来の会場が確保できなかったものの、新たな会場を見いだすことができた。参加者にとっては、食事やゲームを通じて会員と学生がともに楽しめる良い交流の場となった。3月には、「春のレクリエーション」として昼食交流会および谷崎潤一郎記念館の見学を行い、4名が参加した。

● 勉強会については、大阪支部主催の独自開催は実施できなかったが、1月に大阪急性期・総合医療センターと共同で準備し、「第9回災害リハビリテーション支援研修会」を共催した。今回は、株式会社フィリップス・ジャパンの木下氏より、「災害時における人工呼吸器メーカーの対応と現実」と題した講演が行われた。内容としては、2018年の北海道胆振東部地震におけるブラックアウトから、2024年の能登半島地震での対応までが紹介された。あわせて、2024年1月より開始された安否確認サービ

ス「エマージェンシーコール」について説明があり、電話番号や LINE、ショートメール等を活用し、震度 5 強以上の地震発生時に自動で安否確認の連絡が届く仕組みが導入されているとの情報提供があった。次に、兵庫頸損連の米田氏より、昨年 11 月に明石市で実施された避難訓練に参加した経験について報告があった。当日はあいにくの雨の影響もあり参加者は少なく、特に障害当事者の参加はほとんど見られなかった。また、車椅子での移動支援についても十分に慣れていない様子が見受けられた。避難所の備品は限られており、非常食も簡易的なものにとどまっていた。特に、人工呼吸器使用者にとって重要な発電機や医療的ケア用の物品の備蓄が不足しており、重度障害者が避難所で生活するには十分とは言えない状況であったとの報告がなされた。本研修会は、対面とオンラインを併用して実施され、対面 8 名、オンライン 15 名の参加があった。オンライン参加のしやすさもあり、他支部や一般参加者も多く、関心の高さがうかがえた。なお、勉強会の内容については、機関紙「頸損だより」において特集として取り上げ、参加できなかった方にも情報共有を図る予定である。その他、全国頸損連による「To be yourself」が定期的にオンライン開催されたほか、講演会等の情報提供も行った。

● ピアサポートについては、会員が入院中の頸損者に対し、自身の受傷後の体験を伝える活動を実施した。具体的には、星ヶ丘医療センターと大阪急性期・総合医療センターにて、それぞれ 3 回ずつピアサポートを行った。また、個別の電話やオンラインによる相談対応も実施したほか、外出や余暇活動とともにするセルフヘルプ活動についても、役員や事務局メンバーを中心に徐々に取り組みを進めた。以上が、2025 年度における特筆すべき活動である。

## － 2025 年度活動報告 －

※なお、主催☆、共催★、参加◆とする

### ◎親睦交流企画・他

- ★ 4 / 5 (土) 車いすで桜を見る会&交流会@藤田邸跡公園+あるる
- ☆ 6 / 1 (日) BBQ 交流会「BBQ 2025」@THE BBQ GARDEN in てんしば
- ☆ 7 / 27 (日) ピアホール交流会@ニユートーキョー 第一生命ビル店
- ☆ 8 / 24 (日) EXP02025 体験シェア会 ~車いすで行く万博のリアル~  
「大阪・関西万博、行ってみてどうだった？」@オンライン
- ☆ 9 / 28 (日) 関西頸損のつどい@明石市界限
- ☆ 10 / 26 (日) 地域交流会@奈良
- ☆ 2 / 14 (土) 女性限定イベント「女子頸損の悩み」@オンライン
- ☆ 2 / 22 (土) 新年会「駆けぬける一年のはじまりに 乾杯！  
仲間と語って笑って 今年もウマくやろう！」  
@大阪府立男女共同参画・青少年センター
- ☆ 3 / 15 (日) 春レク「昼食交流会+谷崎潤一郎記念館」@芦屋市

### ◎勉強会

- ◆ 5 / 31 (土) 電動車椅子で巡る世界一周 報告会 ~準備編~  
@KOBE Co CREATION CENTER ルーム A・B+オンライン
- ◆ 6 / 21 (土) 全国頸損連・第 15 回 To be yourself 「災害 1」@オンライン
- ◆ 7 / 20 (日) 全国頸損連・講演会「挑戦は終わらない」  
@リファレンス大阪駅前第 4 ビル 2 3 階・会議室 2307AB
- ◆ 10 / 4 (土) 全国頸損連・第 16 回 To be yourself 「人権 1」@オンライン
- ◆ 10 / 25 (土) 電動車椅子で巡る世界一周報告会~旅の魅力編~

@ANCHOR KOBE イベントスペース A+B

- ◆ 12/13 (土) 全国頸損連・第17回To be yourself 「人権2」@オンライン
- ★ 1/24 (土) 大阪急性期・総合医療センター@医療センター研修室+オンライン  
「第9回災害リハビリテーション支援研修会」
- ◆ 3/8 (日) 頸髄損傷 20 年で実現した カナダ・バンクーバー訪問記  
@明石市文化博物館
- ◆ 3/29 (日) 全国頸損連・シンポジウム「障害のある女性の困難を考える」  
～一人で悩まない社会とするために～@TKP ガーデンシティ京都タワーホテル

◎相談対応 10件 (セルフヘルプ対応を含む)

◎機関紙発行 頸損だより 5回発行 / 事務局通信 3回発行

- ・ 4/13 (日) 頸損だより春号No173発送  
記事：第8回災害リハビリテーション支援研修会 Part 1
- ・ 6/22 (日) 頸損だより夏号No174発送  
記事：第8回災害リハビリテーション支援研修会 Part 2
- ・ 9/14 (日) 頸損だより秋号No175発送  
特集：身体ケア学習会「排泄について」
- ・ 12/21 (日) 頸損だより冬号No176発送  
特集：「私の便利グッズ (自助具) 紹介」Part1
- ・ 3/22 (日) 頸損だより春号No177発送  
特集：「私の便利グッズ (自助具) 紹介」Part2

◎役員会

- ・ 4/13 (日) 4月期役員会 CIL あるる
- ・ 5/11 (日) 5月期役員会 オンライン
- ・ 6/22 (日) 6月期役員会 CIL あるる
- ・ 7/13 (日) 7月期役員会 オンライン
- ・ 8/10 (日) 8月期役員会 CIL あるる
- ・ 9/14 (日) 9月期役員会 CIL あるる
- ・ 10/5 (日) 10月期役員会 オンライン
- ・ 11/16 (日) 11月期役員会 CIL あるる
- ・ 12/21 (日) 12月期役員会 CIL あるる
- ・ 1/10 (日) 1月期役員会 オンライン
- ・ 2/8 (日) 2月期役員会 CIL あるる
- ・ 3/22 (日) 3月期役員会 CIL あるる

◎会議等

- ☆ 4/20 (日) 大阪頸損連絡会支部総会@CIL あるる
- ◆ 5/18 (日) 障大連総会@中央区民センター+オンライン
- ◆ 6/1 (日) DPI 総会@オンライン
- ◆ 6/7・8 (土・日) 全国頸髄損傷者連絡会総会・東京大会  
@日本橋ライフサイエンスハブ+オンライン
- ◆ 7/4 (金) 関定協第40回定時総会@オンライン
- ◆ 7/15 (火) 障大連 (総決起集会+デモ行進) @大阪市中央区民センター
- ◆ 7/19 (土) 三戸呂さんを偲ぶ会@センタープラザ西館6階
- ◆ 7/31 (木) アクセス関西ネットワーク総会@オンライン
- ◆ 8/27 (水) 対府交渉@天王寺区民センター+オンライン
- ◆ 8/28 (木) 対府交渉@住之江区民センター+オンライン
- ◆ 9/7 (日) 全国頸損連絡会代表者会議 (秋)  
@大阪市立青少年センター+オンライン

## 第 53 回全国頸髄損傷者連絡会総会・兵庫大会

- ◆ 12/15 (月) 大阪市オールラウンド交渉・第 1 日目  
@天王寺区民センター+オンライン
- ◆ 12/16 (火) 大阪市オールラウンド交渉・第 2 日目  
@天王寺区民センター+オンライン
- ◆ 3/1 (日) 全国頸損連絡会代表者会議 (春)  
@神戸市立中央文化センター+オンライン

### ◎実行委員会・準備会

- ☆ 大阪頸損連 新年会実行委員会@オンライン 2/7 (土)、2/13 (金)

### ◎その他

- ☆ 頸損連呼吸器使用メンバー情報交換&近況報告会
  - 第 73 回 4/26 情報交換交流会 ZOOM 勉強会
  - 第 74 回 5/17 情報交換交流会 ZOOM 勉強会
  - 第 75 回 6/29 情報交換交流会 ZOOM 勉強会
  - 第 76 回 7/19 情報交換交流会 ZOOM 勉強会
  - 第 77 回 8/16 情報交換交流会 ZOOM 勉強会
  - 第 78 回 9/20 情報交換交流会 ZOOM 勉強会
  - 第 79 回 11/15 情報交換交流会 ZOOM 勉強会
  - 第 80 回 12/27 情報交換交流会 ZOOM 勉強会
  - 第 81 回 1/17 情報交換交流会 ZOOM 勉強会
  - 第 82 回 2/21 情報交換交流会 ZOOM 勉強会
  - 第 83 回 3/21 情報交換交流会 ZOOM 勉強会

#### ☆ オンライン交流会@大阪

- 第 1 回 4/26 オンライン交流会
- 第 2 回 7/26 オンライン交流会
- 第 3 回 8/23 オンライン交流会
- 第 4 回 9/21 オンライン交流会
- 第 5 回 10/19 オンライン交流会
- 第 6 回 11/23 オンライン交流会
- 第 7 回 12/14 オンライン交流会
- 第 8 回 1/18 オンライン交流会
- 第 9 回 2/21 オンライン交流会
- 第 10 回 3/21 オンライン交流会

#### ★ 頸損ピアサポートグループ活動

- 5/24 (土) 大阪急性期・総合医療センター「第 27 回ピアサポートの集い」
- 9/27 (土) 大阪急性期・総合医療センター「第 28 回ピアサポートの集い」
- 1/24 (土) 大阪急性期・総合医療センター「第 29 回ピアサポートの集い」
- 6/28 (土) 星ヶ丘医療センター ピアサポート「受傷後の経験談 Part57」
- 10/18 (土) 星ヶ丘医療センター ピアサポート「受傷後の経験談 Part58」
- 3/7 (土) 星ヶ丘医療センター ピアサポート「受傷後の経験談 Part59」

## 兵庫頸髄損傷者連絡会

2025(令和 7 年)

.4.1	アクセス関西ネットワーク運営会議 オンライン (島本)
.4.10	DPI バリアフリー部会 オンライン (橘、島本)
.4.13	大阪頸髄損傷者連絡会 役員会 (土田)
.4.16~18	バリアフリー2025・福祉機器展 (インテックス大阪) (宮野、土田、橘、島本)

第 53 回全国頸髄損傷者連絡会総会・兵庫大会

.4.19	兵庫頸髄損傷者連絡会・支部総会（中央区文化センター&オンライン） （会場：伊藤、土田、米田、橘、田中和、森内、島本） （オンライン：田中栄、井上、川畑）
.4.21	兵庫県立大学・講義「生活援助論演習Ⅱ」（土田）
.4.22	兵庫医科大学・講義「リハビリテーション概論」（島本）
.4.25	関西医科大学・講義「身体障害系作業療法治療学」（土田）
.5.8	DPI バリアフリー部会 オンライン（橘、島本）
.5.11	大阪頸髄損傷者連絡会 役員会 オンライン（土田）
.5.13	神戸大学医学部保健学科・講義「リハビリテーション工学福祉用具学」（宮野）
.5.18	関西頸損者のつどい「明石焼き巡り」事前調査（土田）
.5.24	大阪頸髄損傷者連絡会 第 27 回ピアサポートの集い（米田）
.5.24	第 52 回車いす SIG 講習会 in 横浜（宮野、土田）
.5.30	川村義肢株式会社新入社員研修（宮野）
.5.31	日本リハビリテーション工学協会関西支部・全国頸髄損傷者連絡会 連携セミナー 「電動車椅子で巡る世界一周報告会～準備編～」(KOBE Co CREATION CENTER) （伊藤、土田、森内、坂東、島本）
.6.3	神戸学院大学・講義「障害者の地域生活と社会での役割」オンライン（米田）
.6.7～8	第 52 回全国頸髄損傷者連絡会総会・東京大会（日本橋ライフサイエンスハブ） （会場：宮野、伊藤、土田、森内、大野、島本）（オンライン：橘、米田）
.6.12	DPI バリアフリー部会 オンライン（橘、島本）
.6.12	神戸医療福祉専門学校 作業療法士学科（土田、伊藤）
.6.19	関西学院大学「三田ワークショップ」（土田）
.6.21	全国頸髄損傷者連絡会 第 15 回「To be yourself」災害Ⅰ オンライン
.6.25	神戸医療福祉専門学校 作業療法士学科（土田、伊藤）
.6.26	『生きていく』上映会（宮野）
.7.3	兵庫県リハビリテーション協議会 令和 7 年度 第 1 回理事会（土田）
.7.10	DPI バリアフリー部会 オンライン（橘、島本）
.7.13	兵庫・九州オンライン交流会（オンライン：米田、伊藤、土田、川畑、島本）
.7.15	ひょうごウクライナ支援プロジェクト研修（土田）
.7.16	令和 7 年度 総合リハビリテーションセンター施設運営協議会 オンライン（島本）
.7.17	神戸学院大学・講義「福祉用具論」（島本）
.7.20	全国頸髄損傷者連絡会「挑戦は終わらない-車椅子ユーザーとして切り拓く未来-」 （リファレンス大阪駅前第 4 ビル）（土田、伊藤、森内）
.7.24	ひょうご福祉用具・介護ロボットフェスティバル 2025（土田）
.7.27	地域交流会 in 川西（アステ市民プラザ）
.8.8～10	第 39 回リハ工学カンファレンス in 東京（宮野、土田）
.8.14	DPI バリアフリー部会 オンライン（橘、島本）
.8.15	アクセス関西ネットワーク運営会議 オンライン（橘、島本）
.8.24	大阪頸髄損傷者連絡会 EXPO2025 体験シェア会（宮野、土田、伊藤）
.9.7	全国頸髄損傷者連絡会・秋の代表者会議 （会場：宮野、伊藤、土田）（オンライン：島本、橘、米田）
.9.11	DPI バリアフリー部会 オンライン（島本）
.9.11	兵庫県立有馬高等学校 「福祉講演会」（土田）
.9.25	兵庫県立有馬高等学校 「福祉講演会」（土田）
.9.28	関西頸損のつどい（明石市）（宮野、伊藤、土田、森内、島本）
.10.3	アクセス関西ネットワーク運営会議 オンライン（橘）
.10.4	全国頸髄損傷者連絡会 第 16 回「To be yourself」人権Ⅰ オンライン
.10.5	大阪頸髄損傷者連絡会 役員会 オンライン（土田）
.10.9	DPI バリアフリー部会 オンライン（島本）
.10.12	兵庫頸髄損傷者連絡会 大バーベキューフェス（明石大蔵海岸） （伊藤、土田、森内、大野、竹村、坂東、桑原、島本）
.10.16	関西学院大学・人権教育科目「障害と人権」講義（宮野）
.10.18	大阪頸髄損傷者連絡会 星ヶ丘ピアサポート「受傷後の経験談あれこれ Part57」（土田）
.10.25	日本リハビリテーション工学協会関西支部・全国頸髄損傷者連絡会 連携セミナー 「電動車椅子で巡る世界一周報告会～旅の魅力編～」(ANCHOR KOBE) （伊藤、土田、森内、桑原、坂東、竹村、島本）
.10.30	三田市立学園小学校「福祉授業」（土田）
.11.4	兵庫大学「家族看護学」・講義（米田）

第53回全国頸髄損傷者連絡会総会・兵庫大会

.11.7	甲子園短期大学「いのちを考える－障害の受容と自立－」・講義(宮野)
.11.9	四国頸損の集い2025(四国中央市福祉会館)(宮野)
.11.9	2025年度 明石市防災訓練(ASK行事)(米田)
.11.15	大阪頸髄損傷者連絡会「おおさかクエスト～街歩きミッション～」(土田)
.11.16	大阪頸髄損傷者連絡会 役員会(土田)
.12.21	大阪頸髄損傷者連絡会 役員会(土田)

2026(令和8年)

.1.8	DPI バリアフリー部会 オンライン(島本)
.1.11	大阪頸髄損傷者連絡会 役員会(土田)
.1.24	第9回災害リハビリテーション支援研修会(会場:土田)(オンライン:米田、宮野)
.1.24	大阪頸髄損傷者連絡会 第29回ピアサポートの集い(土田)
.1.31	障害者と防災「助かる人になろう」シンポジウム オンライン(米田)
.2.5	ひょうごウクライナ支援プロジェクト研修(土田)
.2.7	三田市社会福祉協議会 人権研修会(土田)
.2.8	大阪頸髄損傷者連絡会 役員会(土田)
.2.12	兵庫県リハビリテーション協議会 令和7年度 第2回理事会(島本)
.2.15	全国脊髄損傷者連合会兵庫県支部「脊髄損傷者の可能性を切り開く未来研修」(兵庫県立福祉のまちづくり研究所)
.2.22	大阪頸髄損傷者連絡会・新年会(土田)
.2.25	三田市社会福祉協議会 福祉学習推進研修会 講師(土田、森内)
.2.26	三田市立弥生小学校「福祉授業」(土田)
.3.1	全国頸髄損傷者連絡会・春の代表者会議(宮野、米田、土田、伊藤、島本)
.3.2	大阪頸髄損傷者連絡会 身体ケア学習会「排泄について」(会場:土田、森内)(オンライン:伊藤)
.3.7	大阪頸髄損傷者連絡会 星ヶ丘ピアサポート「受傷後の経験談あれこれ Part58」(土田)
.3.8	学習会「頸髄損傷20年で実現したカナダ・バンクーバー訪問記」(明石市)
.3.12	DPI バリアフリー部会 オンライン(島本)
.3.16	アクセス関西ネットワーク運営会議 オンライン(島本)
.3.29	全国頸髄損傷者連絡会「障がいのある女性に起こる困難を考える～一人で悩まない社会とするために～」(TKP ガーデンシティ京都タワーホテル)(土田、伊藤、大野)
.3.31	兵庫・愛媛支部オンライン交流会(米田、伊藤、土田、川畑、大野、青木、島本)

役員会

2025.4.12	兵庫頸髄損傷者連絡会・役員会(オンライン)
2025.5.10	兵庫頸髄損傷者連絡会・役員会(オンライン)
2025.6.14	兵庫頸髄損傷者連絡会・役員会(オンライン)
2025.7.5	兵庫頸髄損傷者連絡会・役員会(オンライン)
2025.8.23	兵庫頸髄損傷者連絡会・役員会(オンライン)
2025.9.13	兵庫頸髄損傷者連絡会・役員会(オンライン)
2025.10.11	兵庫頸髄損傷者連絡会・役員会(オンライン)
2025.11.8	兵庫頸髄損傷者連絡会・役員会(オンライン)
2025.12.20	兵庫頸髄損傷者連絡会・役員会(ぼしぶる事務所&オンライン)
2026.1.11	兵庫頸髄損傷者連絡会・役員会(オンライン)
2026.2.14	兵庫頸髄損傷者連絡会・役員会(ぼしぶる事務所&オンライン)
2026.3.14	兵庫頸髄損傷者連絡会・役員会(オンライン)

人工呼吸器使用者の集い

2025.4.26	情報交換交流会 ZOOM 勉強会(オンライン)
2025.5.17	情報交換交流会 ZOOM 勉強会(オンライン)
2025.6.28	情報交換交流会 ZOOM 勉強会(オンライン)
2025.7.19	情報交換交流会 ZOOM 勉強会(オンライン)
2025.8.16	情報交換交流会 ZOOM 勉強会(オンライン)
2025.9.20	情報交換交流会 ZOOM 勉強会(オンライン)
2025.11.15	情報交換交流会 ZOOM 勉強会(オンライン)
2025.12.27	情報交換交流会 ZOOM 勉強会(オンライン)

第 53 回全国頸髄損傷者連絡会総会・兵庫大会

2026.1.17	情報交換交流会 ZOOM 勉強会 (オンライン)
2026.2.21	情報交換交流会 ZOOM 勉強会 (オンライン)
2026.3.21	情報交換交流会 ZOOM 勉強会 (オンライン)

相談交流ミーティング

2025.4.5	相談交流ミーティング (オンライン)
2025.5.3	相談交流ミーティング (オンライン)
2025.6.15	相談交流ミーティング (オンライン)
2025.7.5	相談交流ミーティング (オンライン)
2025.8.2	相談交流ミーティング (オンライン)
2025.9.6	相談交流ミーティング (オンライン)
2025.11.1	相談交流ミーティング (オンライン)
2025.12.6	相談交流ミーティング (オンライン)
2026.2.7	相談交流ミーティング (オンライン)
2026.3.7	相談交流ミーティング (オンライン)

セルフヘルプ

2025.4.20	セルフヘルプ 神戸市在住 (米田)
2025.5.4	セルフヘルプ 神戸市在住 (土田、森内)
2026.3.25	セルフヘルプ 西播磨入院患者 (島本)

県リハ学習交流会

2025.5.25	第 16 回県リハ学習交流会 (オンライン)
2025.8.24	第 17 回県リハ学習交流会 (オンライン)
2025.11.23	第 18 回県リハ学習交流会 (オンライン)
2026.2.19	第 19 回県リハ学習交流会 (オンライン)

ASK 定例会

2025.4.3	第 25 回 ASK・定例会 オンライン (米田)
2025.5.8	第 26 回 ASK・定例会・総会 明石勤労福祉会館 ASK 事務所 (米田)
2025.6.5	第 27 回 ASK・定例会 オンライン (米田)
2025.7.3	第 28 回 ASK・定例会 オンライン (米田)
2025.8.7	第 29 回 ASK・定例会 オンライン (米田)
2025.9.4	第 30 回 ASK・定例会 オンライン (米田)
2025.10.3	第 31 回 ASK・定例会 オンライン (米田)
2025.11.6	第 32 回 ASK・定例会 オンライン (米田)
2025.12.4	第 33 回 ASK・定例会 オンライン (米田)
2026.1.8	第 34 回 ASK・定例会 オンライン (米田)
2026.2.5	第 35 回 ASK・定例会 オンライン (米田)
2026.3.5	第 36 回 ASK・定例会 オンライン (米田)

縦横夢人編集会議

2025.3.29	第 48 号編集会議 (オンライン)
2025.6.29	第 48 号編集会議 (オンライン)
2025.7.20	第 48 号編集会議 (オンライン)
2025.8.30	第 49 号編集会議 (オンライン)
2025.10.17	第 49 号編集会議 (オンライン)
2025.11.4	第 49 号編集会議 (オンライン)
2025.11.15	第 49 号編集会議 (オンライン)
2025.12.28	第 50 号編集会議 (オンライン)
2026.1.24	第 50 号編集会議 (オンライン)
2026.2.1	第 50 号編集会議 (オンライン)
2026.2.7	第 50 号編集会議 (オンライン)

機関誌発行

兵庫支部機関誌	・縦横夢人 夏 48 号 2025 年 7 月 28 日発行 特集『褥瘡』
---------	--

第 53 回全国頸髄損傷者連絡会総会・兵庫大会

<ul style="list-style-type: none"> <li>・縦横夢人 秋 49 号 2025 年 11 月 12 日発行 特集『受傷して 20 年、現在に至るまで』</li> <li>・縦横夢人 冬 50 号 2026 年 2 月 16 日発行 特集『頸髄損傷 20 年で実現したカナダ・バンクーバー訪問記』</li> </ul>
---

## 香川頸髄損傷者連絡会

令和 7 年(2025 年)		
4 月 6 日(日)	お花見	丸亀ひまわりセンター
	参加者 14 名 会員 8 名 介助者 6 名	
5 月 18 日(日)	全国脊髄損傷者連合会 香川県支部 総会	丸亀ひまわりセンター
5 月 18 日(日)	勉強会(講演会 車椅子で世界一周旅行 宮野秀樹)	丸亀ひまわりセンター
	参加者 18 名 会員 7 名 介助者 5 名 会員外 6 名	
6 月 8 日(土)	全国頸髄損傷者連絡会総会・東京大会	Web 会議ツール Zoom
	参加者 会員 1 名	
6 月 7 日 8 日 (土日)	全国脊髄損傷者連合会総会 代表者会議(東京)	Web 会議ツール Zoom
	参加者 会員 1 名	
7 月 27 日(日)	食事会	サンリゾート(サンカフェ)
	参加者 6 名 会員 4 名 介助者 2 名	
8 月 8 日(金)	第 7 回移動等円滑化評価会議四国分科会	高松サポート合同庁舎
	参加者 会員 1 名	
9 月 28 日(日)	第 45 回全脊連中四国ブロック会議	岡山県
	参加者 3 名 会員 2 名 介助者 1 名	
10 月	香川障がいフォーラムバリアフリー調査	観音寺市の 2 ヶ所の海岸を調査
	参加者 会員 1 名	
11 月 9 日(日)	四国頸損の集い 2025	四国中央市福祉会館 4 階
	参加者 6 名 会員 3 名 介助者 3 名	
11 月 24 日(月)	食事会	アンノット
	参加者 8 名 会員 5 名 介助者 3 名	
11 月 26 日(水)	香川障がいフォーラム	観音寺市へ要望書提出活動
	参加者 会員 1 名	
12 月 18~20 日 (木金土)	ニーズ・シーズマッチング交流会 2025	東京都立産業貿易センター浜松町館
	参加者 2 名 会員 1 名 介助者 1 名	
令和 8 年(2026 年)		
1 月 18 日(日)	新年会	レオマの森
	参加者 16 名 会員 7 名 介助者 9 名	
3 月 1 日(日)	全国頸髄損傷者連絡会 代表者会議	Web 会議ツール Zoom
	参加者 会員 1 名	
3 月 5 日(木)	役員会	Web 会議ツール Zoom
	参加者 会員 4 名	

第 53 回全国頸髄損傷者連絡会総会・兵庫大会

その他	全脊連の定例理事会と臨時理事会に参加	Web 会議ツール Zoom
毎月第 2 土曜日	頸損オンラインランチミーティング	Web 会議ツール Zoom
毎月第 4 日曜日	介護保障 WG	Web 会議ツール Zoom
毎月第 3 木曜日	香川障がいフォーラム定例会	Web 会議ツール Zoom

## 愛媛頸髄損傷者連絡会

－2025 年度活動報告－

- 2025 年 4 月 Zoom 交流会 part50 2025 年 5 月 13 日 (火) 19:00～20:00 Zoom を使ったの交流会
- 2025 年 5 月 Zoom 交流会 part51 2025 年 5 月 27 日 (火) 19:00～20:00 Zoom を使ったの交流会
- 2025 年 6 月 Zoom 交流会 part52 2025 年 7 月 1 日 (火) 19:00～20:00 Zoom を使ったの交流会
- 2025 年 7 月 Zoom 交流会 part53 2025 年 7 月 29 日 (火) 19:00～20:00 Zoom を使ったの交流会
- 2025 年 8 月 Zoom 交流会 part54 2025 年 8 月 26 日 (火) 19:00～20:00 Zoom を使ったの交流会
- 2025 年 9 月 Zoom 交流会 part55 2025 年 9 月 30 日 (火) 19:00～20:00 Zoom を使ったの交流会
- 2025 年 10 月 Zoom 交流会 part56 2025 年 11 月 4 日 (火) 19:00～20:00 Zoom を使ったの交流会
- 2025 年 11 月 第 19 回四国頸損の集い、2025  
 2025 年 11 月 9 日 (日) 11:30～15:30 対面交流会  
 自己紹介、昼食、各県報告、個人近況報告、勉強会  
 iPhone・iPad のワンスイッチ勉強会  
 講師:松尾 光晴 氏(アクセスエール株式会社 代表取締役)  
 場所:四国中央市福祉会館 4 階多目的ホール  
 頸髄損傷者 10 名 介助者・家族・支援者・参加者 14 名
- 2025 年 11 月 Zoom 交流会 part57 2025 年 11 月 18 日 (火) 19:00～20:00 Zoom を使ったの交流会
- 2025 年 12 月 Zoom 交流会 part58 2026 年 1 月 6 日 (火) 19:00～20:00 Zoom を使ったの交流会
- 2026 年 1 月 Zoom 交流会 part59 2026 年 1 月 27 日 (火) 19:00～20:00 Zoom を使ったの交流会
- 2026 年 2 月 Zoom 交流会 part60 2026 年 3 月 3 日 (火) 19:00～20:00 Zoom を使ったの交流会
- 2026 年 3 月 Zoom 交流会 part61・兵庫支部との交流会  
 3 月 31 日 (火) 19:00～20:00 Zoom を使ったの交流会

愛媛頸髄損傷者連絡会では、毎月オンライン交流会を開催し、会員同士の安否確認や日常生活に関する情報交換を行った。外出機会に限られる会員も多く、定期的につながる大切な場となっている。

また、11 月には恒例行事である「四国頸損の集い」を開催し、身体障害者のタブレット活用に関する勉強会を実施した。コミュニケーションや情報取得の手段として有効である一方、自治体によってはタブレット端末や関連アプリ、サブスクリプションサービスへの理解や支援が十分ではないという課題も共有された。

今後は、重度障害者の情報アクセスや社会参加の充実に向けた発信を続けるとともに、ピアサポートを強化し、共に活動する県内の頸髄損傷者を増やしていくことを目標として活動していく。

## 徳島頸髄損傷者連絡会

2025 年度

2025/6/1	6 月例会	中止		県障がい者交流プラザ
2025/6/7-8	全国総会東京大会		0 名	Zoom 参加 1 名
2025/10/15	10 月例会	近況報告等	7 名	県障がい者交流プラザ
2025/11/9	四国頸損の集い		1 名	四国中央市
2026/2/7	新年会		5 名	焼き鳥 よしこの

## 九州頸髄損傷者連絡会

2025 年

4 月 26 日	異文化交流 with GENECT
5 月 24 日	くじゅう花公園 お楽しみ観光
6 月 7 日	ピアカウンセリング公開講座
7 月 21 日	海で“できる！”を体験しよう！ビーチスター・ジャリスター体験会
8 月 23 日	見えないひとの暮らし体験会 『食べて語って体験しよう』
9 月 27 日	インクルーシブボウリング大会
10 月 4 日	大分県バリアフリー住宅推進フォーラム 2025
11 月 29 日	竹田市ユニバーサルツーリズム街歩きイベント
12 月 20 日	車椅子で世界一周～挑戦は終わらない～講演会
1 月 25 日	重度障害者の母～共に歩き続けた 20 年～講演会
2 月 11 日	バレンタインお菓子作りイベント
3 月 28 日	トマト狩り体験

# 2025 年度 収支報告書・監査報告書

## 令和7年度 全国頸髄損傷者連絡会 収支計算書

令和7年4月1日～令和8年3月31日

### 収入の部

科目	金額
本部会費	110,000
本部運営分担金	483,000
寄付金等収入	610,293
機関紙等売上代金	15,150
助成金	4,449,000
受取利息	3,134
小計	5,670,577
前期繰越	1,259,444
合計	6,930,021

### 支出の部

科目	金額
団体加盟費	86,954
事務所使用料	180,000
旅費交通費	176,004
事務諸経費	175,707
助成金	4,962,724
機関紙等・発送・印刷費	317,001
小計	5,898,390
次期繰越金	1,031,631
合計	6,930,021

上記のとおり報告します。

令和8年4月1日

会計

三ツ井 真平



令和7年度の会計について監査を執行し  
収支は適正であり会計報告は正しく表示されていることを認めます。

令和8年4月1日

会計監査

毛利 公一



## 頸損者を取り巻く現状と課題

### ■障害者の権利保障

国際連合の障害者権利条約の批准以降、日本では「障害者基本法」や「障害者差別解消法」などの整備が進み、障害のある人が地域で自立し、尊厳を持って暮らせる社会づくりが進められている。しかし、制度と現場の間には依然として大きなギャップがある。

教育分野ではインクルーシブ教育が推進されているものの、実際には分離的な教育体制が中心となっており、合理的配慮や学習環境の整備は十分とはいえない。学校バリアフリーや教員配置の見直しなど、誰もが地域で共に学べる環境づくりが求められている。

就労分野では、障害者雇用促進法による雇用率制度が進められている一方で、仕事内容の限定やキャリア形成の難しさなど、雇用の質に関する課題が残っている。特に重度障害者については、介助を前提とした就労支援や合理的配慮の不足が、社会参加の大きな壁となっている。

その中で、重度障害者の権利保障に関する重要な制度的前進もあった。CIL いろはの障害当事者スタッフの海外留学を契機として、厚生労働省への働きかけが行われ、重度訪問介護（重訪）の制度運用が整理された。その結果、1 年未満の海外滞在であれば国内居住とみなし、海外でも重訪が利用可能であることが明確化された。さらに「重度訪問介護等の支給決定事務に関する Q&A」が発出され、全国の自治体で同様の運用が可能となった。

交通・まちづくりの分野では、小規模店舗のバリアフリー化や UD タクシーの乗車拒否改善、高速バスや駅のアクセシビリティ向上など、移動の権利保障に向けた取り組みが進められている。

これらの取り組みの根底には、「障害は個人の問題ではなく、社会の構造によって生じる」という社会モデルの考え方がある。障害者の権利保障を実現するためには、制度整備だけでなく、社会全体の意識改革と障害当事者の参画が必要である。

#### 【課題】

- ◎頸髄損傷を含む重度障害への理解促進と、地域生活を支える支援体制の充実を求める。
- ◎重度訪問介護を含む介助制度の拡充と、就労・就学への切れ目ない支援を求める。
- ◎合理的配慮とバリアフリーの推進による、安心して暮らし働ける社会づくりを求める。
- ◎障害当事者の意見を政策へ反映する仕組みの強化を求める。

### ■介助制度

2025 年度において、重度訪問介護をはじめとする障害福祉サービスでは、重度障害者の地域生活を支える重要性が改めて認識され、制度の充実に向けたさまざまな取り組みが進められた。特に障害福祉分野における「福祉・介護職員等処遇改善加算」の拡充により、重度訪問介護や居宅介護などの訪問系サービスに従事する介助者の処遇改善が図られ、人材確保に向けた環境整備が進められた。また、介助者不足への対応として外国人介護人材の受け入れ拡大や、ICT を活用した介護記録・情報共有の効率化、見守り機器等の導入による業務負担軽減も進められている。

さらに、厚生労働省では「障害者の地域生活支援も踏まえた障害者支援施設の在り方検討会」が開催され、施設中心の支援から地域生活を基盤とした支援への転換について議論が進められた。これは、重度障害者が

施設ではなく地域で暮らすことを前提とした支援体制の構築が、国レベルで改めて重視され始めた動きとして評価できる。また、2026 年度に向けて訪問系サービスの国庫負担基準の見直しや処遇改善策のさらなる拡充も検討されており、長時間介助を必要とする重度障害者を支える体制強化が期待されている。

しかしその一方で、頸髄損傷者が地域で自立生活を継続する上では依然として多くの課題が残されている。最も大きな課題の一つは自治体間の支給決定格差であり、同じような障害程度であっても居住地域によって介助時間数に大きな差が生じている現状は改善されていない。また、重度訪問介護については、就労・通勤・営業活動等における利用制限が依然として存在し、「生活の維持」は保障されても、「働く」「学ぶ」「社会参加する」ための支援は十分とは言えない状況が続いている。加えて、入院時介助の保障も限定的であり、地域生活の継続を困難にする要因となっている。

さらに、介助者不足は深刻化しており、必要な介助時間が支給されていても実際には人材確保ができず生活が成り立たないケースも少なくない。加えて、一部地域では依然として家族介護を前提とした制度運用が見られ、「家族が介護するのが当然」という考え方が残されていることも大きな課題である。

頸髄損傷者にとって介助制度は単なる福祉サービスではなく、「生きること」と「社会参加」を支える基盤そのものである。当事者団体としては、自治体間格差の是正、入院時介助の恒久的保障、就労・通学・旅行等を含めた介助保障の拡充、介助者の処遇改善と人材確保、「家族介護前提」からの脱却、そして重度障害者の地域生活権の確立を引き続き求めていく必要がある。あわせて、重度障害者であっても地域で当たり前暮らし、学び、働き、社会に参加できる社会の実現に向けて、制度提言と社会啓発を継続していくことが重要である。

#### 【課題】

- ◎頸髄損傷者の地域での自立生活が確立できる介助制度の拡充を関係機関に求める。
- ◎介助者の待遇改善を求め、人材不足の問題解決を関係機関に働きかける。

## ■交通・まちづくり

昨年度は、交通・まちづくり分野では、障害者や高齢者を含むすべての人が移動しやすい社会を目指し、各地でバリアフリー化やユニバーサルデザインの推進が進められた。鉄道駅におけるホームドア設置やエレベーター整備、ノンステップバス導入の拡充、多目的トイレやユニバーサルルームの整備などが進み、頸髄損傷者にとっても外出や移動の環境は少しずつ改善されている。また、観光分野においても「ユニバーサルツーリズム」の考え方が広がり、障害者が旅行や地域活動に参加しやすい環境整備が進められている。さらに、インターネットを活用したバリアフリー情報の発信や、車椅子対応ルート検索など、ICT 技術を活用した支援も拡充されつつある。

一方で、頸髄損傷者が地域で自由に移動し、社会参加を行う上では、依然として多くの課題が残されている。例えば、地方部では公共交通機関のバリアフリー化が十分に進んでおらず、淡路島においては電動車椅子利用者が公共交通のみでアクセスする手段が極めて限られている。現状では、明石側から淡路島へ渡る際、ジェノバラインによる船舶移動以外に実質的な移動手段がなく、高速バスについても電動車椅子で利用できないケースが多いため、自家用車以外での移動が困難となっている。また、観光地や宿泊施設では「バリアフリー対応」と表記されていても、実際には大型電動車椅子が通行できない通路幅や、介助スペース不足のトイレ、段差の残る客室などが存在しており、「利用できる」と「実際に安心して使える」との間に大きな差があることも課題である。

さらに、鉄道利用においても、乗車のたびに事前連絡が必要であったり、利用可能な車両や駅が制限されるなど、依然として「特別な移動」として扱われる場面が多い。災害時においても、避難所までの移動経路が車椅子で通行できない、避難所内で電動車椅子や医療機器の電源確保が想定されていないなど、重度障害者を前提とした防災まちづくりは十分とは言えない。

当事者団体としては、単に設備整備を求めるだけではなく、頸髄損傷者自身が地域調査やアクセス検証に参加し、「本当に使える環境」であるかを社会に発信していくことが重要である。また、行政・交通事業者・観光事業者との継続的な対話を通じ、介助者を含めた移動保障や情報保障の充実を求めていく必要がある。誰もが「行きたい場所へ行ける社会」を実現するため、当事者の視点に基づく提言活動を今後も継続していかなければならない。

#### 【課題】

- ◎公共交通機関や観光地、宿泊施設等における移動障壁の実態調査を行い、電動車椅子利用者を含めた移動保障の改善を国や自治体、交通事業者へ提言する。
- ◎交通・観光・まちづくり分野の各種会議や研修会へ積極的に参加し、頸髄損傷者の移動や社会参加に関する課題を継続的に発信する。
- ◎学習会や研修会を通じ、バリアフリー調査やユニバーサルツーリズム、防災まちづくり等について提言できる当事者人材の育成を進める。

## ■福祉用具(補装具・日常生活用具)

頸髄損傷者が自らの住環境を整備し、福祉用具を適切に活用することは、自立度を高め、尊厳ある自分らしい生活を地域社会で送るための基盤となります。彼らの社会参加と在宅生活の継続には、補装具や日常生活用具の適切な処方と利用が不可欠です。

しかしながら、近年の福祉用具市場は介護保険制度に基づくレンタル事業が主流となり、障害当事者の個別の身体状況に応じた専門性の高い用具を取り扱う業者が著しく減少しています。さらに、医療側においても最新の福祉機器に対する理解や、適切な給付判定を行うための専門知識が不足している医療機関があり、結果として必要な機器の給付が却下される事例が全国で相次いでいます。こうした事態を解消するためには、標準化された適切な判定基準を確立し、必要な人へ必要な福祉機器が迅速かつ確実に届く供給システムの構築が急務です。

さらに、経済的負担の観点からは、補装具費給付制度や日常生活用具給付等事業における自己負担のあり方が深刻な問題となっています。現行の給付基準額では実際の購入費用をまかないきれず、結果として当事者に過度な費用負担を強いているケースが少なくありません。加えて、日常生活用具は市区町村が主体となって運営されているため、支給の可否や上限額に深刻な「地域格差」が生じています。私たちは、全国の福祉用具給付の実態と自己負担の現状を精緻に把握し、居住地域に関わらず公平な支援が受けられる制度となるよう、国や地方自治体に対して強く働きかけを行っていく必要があります。

その具体的な取り組みの第一歩として、当会では前年度から本年度にかけて、在宅生活を支える「移乗用リフト」の実態調査を実施しています。本調査により、日常生活におけるリフトの必要性と、当事者世帯が直面している自己負担の実態をデータとして可視化し、根本的な制度課題の解決を迫るためのエビデンス(証拠)となる報告書をまとめ、関係各所へ配布・提言してまいります。

テクノロジーや福祉機器の発展を頸髄損傷者の生活の豊かさに直結させるためには、当事者団体だけでな

く、医療・工学・行政などの専門家と緊密に連携した相談支援体制の強化が欠かせません。今後とも多職種とのネットワークを強固に広げ、誰もが安心して暮らせる社会の実現に尽力してまいります。

【課題】

- ◎必要なときに、必要な用具が、無理のない負担ですっと使い続けられよう求める。
- ◎自己負担軽減と地域格差解消に向けて移乗リフト普及調査をまとめる。

## ■医療関係

頸髄損傷者にとって医療は、命を守るだけでなく、地域生活や社会参加を支える重要な基盤となっている。しかし現在も、多くの当事者が医療や介護の面で不安や困難を抱えている。

まず、専門的な医療を受けられる病院が地域によって限られていることが大きな課題である。急性期治療後に地元へ戻った際、頸髄損傷に対応できる医療機関やリハビリ施設が少なく、継続的なケアを十分受けられない状況もみられる。特に呼吸器管理や排泄管理、褥瘡予防などは専門的な知識と経験が必要であるが、一般病院や在宅医療の現場では十分な知識や経験を持つ医療従事者が不足している。また、頸髄損傷者の高齢化に伴い、フレイルや生活習慣病など新たな健康課題も増加している。訪問看護や介護サービスを利用したくても、人材不足により必要な支援を受けられない地域もあり、家族介護への負担集中が深刻化している。

一方で、オンライン診療や遠隔リハビリも進められているが、褥瘡確認や身体状態の評価など対面でしか対応できないケアも多く、補完的役割にとどまっている。

今後は、急性期から在宅生活まで継続した支援体制を構築するとともに、医療従事者に頸髄損傷への理解を深めてもらう取り組みが必要である。また、同じ障害を持つ当事者によるピアサポートや地域で相談できるネットワークをつくり、本人の意思や生活希望を尊重した支援体制づくりが求められる。

【課題】

- ◎専門医療機関不足の課題に対し、地域で継続的ケアを受けられる体制整備を求める。
- ◎呼吸器管理や褥瘡予防、高齢化によるフレイルや生活習慣病に対応するため、専門知識を持つ医療従事者の育成を求める。
- ◎孤立や不安を軽減するため、ピアサポートや地域相談ネットワーク整備を求める。

## ■住宅環境

近年、頸髄損傷者をはじめとする重度身体障害者の地域生活を支える住宅環境の整備は、少しずつ前進している。特に、国が進める「地域共生社会」や「障害者の地域移行」の流れの中で、障害者が施設ではなく地域で暮らすことへの理解は以前より広がりつつある。また、一部自治体では、重度障害者の一人暮らしや地域生活を前提とした住宅改修助成、バリアフリー改修補助、民間賃貸住宅への入居支援制度の拡充が進められた。さらに、高齢者・障害者・外国人等の住宅確保要配慮者を対象とした「住宅セーフティネット制度」においても、障害者の入居支援を行う居住支援法人の活動が広がりつつあり、地域での居住継続を支える取り組みが増えている。

加えて、電動車椅子利用者や人工呼吸器使用者など、重度障害者の地域生活の実践例が社会に発信される

機会も増え、「重度障害者でも地域で暮らせる」という認識は徐々に浸透してきた。特に、介助制度を活用しながら一人暮らしを行う当事者の存在は、社会の理解促進に大きな役割を果たしている。

しかしその一方で、課題は依然として非常に大きい。まず、民間賃貸住宅では、重度障害者であることを理由に入居を断られるケースが今なお少なくない。介助者の出入りや医療的ケアへの理解不足、事故への過剰な不安などから、物件探しそのものが困難になる現状が続いている。また、車椅子で生活可能なバリアフリー住宅そのものが圧倒的に不足しており、エレベーターのない住宅や狭小な物件も多い。住宅改修助成についても、自治体ごとの格差が大きく、重度障害者の実際の生活ニーズに十分対応できていない地域もある。

さらに、地域で生活するためには住宅だけでなく、24 時間介助体制や移動支援、医療との連携などを含めた総合的な生活基盤が必要である。しかし現状では、「住む場所があっても介助者がいない」「制度上は可能でも実際には地域生活を選択しにくい」という問題も多く残されている。

当事者団体としては、重度障害者の入居拒否問題の改善に向けた社会啓発や、不動産事業者への理解促進、バリアフリー住宅の整備拡充に向けた政策提言を継続していく必要がある。また、「重度障害者が地域で暮らすことは特別なことではない」という価値観を社会全体に広げ、地域で当たり前で暮らせる社会の実現を目指していくことが求められている。

#### 【課題】

- ◎住宅改修の助成制度の拡充と専門人材の育成を行う。
- ◎賃貸住宅のバリアフリー化促進を求める。
- ◎住宅改修の事例についての情報発信を行う。

## ■所得保障・就労

2025 年度において、障害者の就労と所得保障を取り巻く環境は、少しずつではあるものの改善が進んだ。特に、テレワークや ICT 機器の活用が社会全体で定着したことにより、重度障害者においても在宅で働く選択肢が広がりつつある。また、企業側においても合理的配慮に対する理解が以前より進み、障害者雇用における柔軟な勤務形態や業務設計を取り入れる事例が増えている。さらに、障害者雇用促進法や障害者差別解消法に基づく対応が徐々に浸透し、「働ける人だけが働く」のではなく、「必要な支援があれば働ける」という視点が社会の中で広がりつつあることは一定の前進である。

一方で、頸髄損傷者を取り巻く現実依然として厳しい。高位頸髄損傷者の多くは 24 時間にわたる介助を必要としており、通勤や職場環境の問題だけでなく、就労中の介助保障が十分ではないことが大きな壁となっている。また、就労によって所得が増加した場合、障害年金や各種福祉サービスへの影響を懸念し、「働きたいが働けない」「働くことで生活が不安定になる」という声も少なくない。特に重度訪問介護制度については、通勤・就労中利用の制限や自治体ごとの運用差が存在しており、地域によって社会参加の機会に大きな格差が生じている。

加えて、物価高騰が続く中、障害年金だけでは生活を維持することが困難な状況も深刻化している。医療費、介護関連費用、福祉機器、移動費など、頸髄損傷者には障害特有の支出が多く、所得保障制度が現実の生活コストに十分対応しているとは言い難い。

当事者団体としては、単なる雇用率向上だけではなく、「重度障害者が地域で安心して働き続けられる環境づくり」を求めていく必要がある。そのためには、就労中の介助保障の拡充、障害年金制度の改善、就労によって福祉制度利用が不利益とならない仕組みづくり、そしてテレワークや ICT 活用を前提とした新たな働

き方の推進が重要である。また、社会に対して「重度障害者は支えられるだけの存在ではなく、社会に貢献できる存在である」という理解を広げていくことも、私たち当事者団体の重要な役割である。

【課題】

- ◎重度障害者が介助を利用して就労できる仕組みを求める。
- ◎重度訪問介護を就労にも利用でき、なおかつ報酬単価も通常の重度訪問介護報酬単価と同じにすることを求める。
- ◎障害年金の支給額引き上げを求める。

## ■女性の権利

「障害のある女性は、ジェンダーと障害という二重の困難を抱えやすく、日常生活や社会参加の場面で複合的な差別や困難に直面しやすい状況にある。障害者基本法や障害者差別解消法、国連の障害者権利条約などにより権利保障は進められているものの、現場では依然として支援体制や理解不足など、さまざまな問題が残されている。

その中でも大きな課題の一つが、介護や支援の現場における「異性介助」の問題である。障害のある女性の中には、日常生活において常時介助を必要とする方も少なくない。特に入浴や排泄などプライバシー性の高い場面では、異性介助に対して心理的負担や不安、羞恥心を抱くことがある。しかし現実には、人手不足や支援体制の事情から、同性介助を十分に選択できないケースも多い。

こうした課題について考えるため、3月29日に京都で「障がいのある女性に起こる困難を考える～一人で悩まない社会とするために～」というシンポジウムを開催した。障害のある女性当事者の声を中心に、複合的差別の実態を共有するとともに、支援現場や制度の課題、社会のまなざしについて多角的に議論を行った。当日は、女性だけではなく男性頸髄損傷者も多数参加し、グループワークを通して意見交換を行った。その中には、「女性の問題を女性だけで考えるのではなく、男性も一緒に理解し、考えていくことが必要」という意見が多く挙げられた。

また、大阪支部では、女性頸髄損傷者限定の交流イベント「女性頸損の悩み」も開催された。女性同士だからこそ安心して話せる環境の中で、介助や生活、身体の悩み、将来への不安などについて率直な意見交換が行われた。当事者同士が悩みを共有し、孤立を防ぐ場の重要性が改めて確認された。

障害のある女性が安心して自分らしく生活するためには、同性介助を選択できる環境づくりや相談体制の充実、当事者の声を反映した支援制度の整備が欠かせない。また、女性だけで抱え込まず、男性を含めた多くの人が課題を理解し、ともに考える姿勢が求められている。

【課題】

- ◎専門家等と連携した学習会・シンポジウムを継続開催する。
- ◎女性頸髄損傷者同士が安心して交流できる場を拡充する。
- ◎同性介助を含め、本人の意思が尊重される支援環境づくりを進める。
- ◎女性だけでなく男性も含め、共に学び考える機会を増やす。

## 2026 年度 活動方針提起

### ■活動の基本的な考え方

#### 「つながり、支え合い、未来を切り拓く」～当事者の力で社会を変える～

全国頸髄損傷者連絡会はこれまで、先輩たちの行動と挑戦によって、自立生活や介助制度の充実、社会参加の拡大など、多くの成果を築いてきた。しかし、障害者権利条約や障害者差別解消法の理念が広がる一方で、制度と現実の間には依然として大きな隔りがある。地域による支援格差、介助者不足、医療体制の不十分さ、就労や教育の場における障壁など、私たちを取り巻く課題は今なお少なくない。

一方で、重度訪問介護を利用しながら海外留学や長期滞在が可能であることが制度上明確化されるなど、重度障害者の可能性を広げる前向きな動きも生まれている。こうした成果は、当事者が声を上げ、社会に働きかけ続けてきた結果であり、私たち自身が社会を変える主体であることを示している。

頸髄損傷者にとって、医療・介助・福祉は生命と生活を支える基盤である。しかし、専門的な医療やリハビリテーションを受けられる地域は限られ、介助者不足も深刻化している。また、高齢化に伴う健康課題や家族介護への負担集中など、新たな問題も顕在化している。当会は、「必要な人が、必要な時に、必要な支援を受けられる社会」の実現を目指し、医療・介護・福祉の連携強化や制度改善を求めている。

また、障害のある女性が直面する複合的な困難や異性介助の問題など、多様な当事者の声にも目を向けなければならない。女性頸髄損傷者をはじめ、若年受傷者、高齢頸髄損傷者、人工呼吸器使用者など、それぞれの立場や課題を共有し、誰もが安心して声を上げられる環境づくりを進めていく。

さらに、受傷直後の不安や孤立を防ぐためには、当事者同士が支え合うピアサポートの充実が欠かせない。オンライン相談窓口や交流活動、ICTを活用した情報発信を強化し、「決して一人にしない」支援体制を全国に広げていくとともに、次世代の担い手育成にも取り組む。

私たちが目指すのは、障害があっても地域で当たり前暮らし、学び、働き、旅をし、自らの人生を主体的に選択できる社会である。その実現のためには、一人ひとりがつながり、支え合い、行動することが必要である。

2026 年度、全国頸髄損傷者連絡会は「つながり、支え合い、未来を切り拓く」を合言葉に、仲間とともに新たな一歩を踏み出し、頸髄損傷者の権利保障と自立・社会参加の実現に向けて活動を推進していかなければならない。

## ■基本活動

### つながり、支え合い、ともに行動しよう！

頸髄損傷者が尊厳を奪われることなく、一人の人間として自分らしく豊かな人生を歩むためには、自らの可能性を信じる力を取り戻すことが重要である。その力は、仲間との出会いや新たな挑戦、成功や感動の体験を通じて育まれていく。

当会には、交通事故やスポーツ事故、転倒事故などにより重度の障害を負いながらも、地域で生活し、働き、学び、旅をするなど、それぞれの人生を切り拓いてきた多くの仲間がいる。その経験は、受傷直後の不安や絶望の中にいる人々にとって大きな希望となる。一方で、医療技術の進歩によって命が救われるようになった現在でも、人工呼吸器を使用する人や重度の介助を必要とする人、その家族が、十分な情報や支援につながれず孤立している現状がある。

私たちは、そのような人たちに必要な情報や経験を届け、「一人ではない」と感じてもらうことを大切な使命としている。ピアサポートや交流活動、情報発信を通じて、頸髄損傷者が地域で主体的に生きるための力を支え、誰もが希望を持って人生を歩める社会を目指して活動している。

全国頸髄損傷者連絡会は当事者団体であるが、支援や情報提供の対象を会員に限定するものではない。頸髄損傷者やその家族、支援者、関係機関など、広く社会とつながりながら活動を展開している。今年度も「つながり、支え合い、未来を切り拓く」の理念のもと、仲間とともに行動し、頸髄損傷者の自立と社会参加の実現に向けて、以下の活動を推進する。

- 頸損者へのセルフヘルプ、ピアサポートを積極的に実践
  - ・各支部間の交流、支部のない地域での出張活動・招待活動等
- 頸損者の抱える問題を共有化し、問題解決の道を具体的に探す
  - ・代表者会議、支部間交流、頸損同士の交流によって問題の共有化を図る
- 情報を収集し、頸損者及び関係機関等への情報提供をより充実させる
  - ・機関誌・HPの内容充実、講演活動の充実
- 障害の枠を超えた各分野との交流・活動
  - ・障害者団体、公的機関、学会、教育機関、分野別メーカーとの交流や関連会合への出席
- 他団体との統一行動
  - ・介助、交通・まちづくり、制度改革などの課題を協力して行政への要請行動を行う

## ■活動重点目標

- ☆生活を向上させるための法律・制度・サービス改善交渉を行う
- ☆当事者の視点による意見を的確に伝えられる人材の育成を目指す
- ☆障害者支援を目的とする機関とのネットワークを拡げる

## ■分野別活動方針

### ●障害者の権利保障

- ◎頸髄損傷を含む重度障害への理解促進と、地域生活を支える支援体制の充実を求めていく。
- ◎重度訪問介護を含む介助制度の拡充と、就労・就学への切れ目ない支援を求めていく。

◎合理的配慮とバリアフリーの推進による、安心して暮らし働ける社会づくりを求めていく。

◎障害当事者の意見を政策へ反映する仕組みの強化を求めていく。

### ●介助制度

◎頸髄損傷者の地域での自立生活が確立できる介助制度の拡充を関係機関に求めていく。

◎介助者の待遇改善を求め、人材不足の問題解決を関係機関に働きかけていく。

### ●交通・まちづくり

◎公共交通機関や観光地、宿泊施設等における移動障壁の実態調査を行い、電動車椅子利用者を含めた移動保障の改善を国や自治体、交通事業者へ提言していく。

◎交通・観光・まちづくり分野の各種会議や研修会へ積極的に参加し、頸髄損傷者の移動や社会参加に関する課題を継続的に発信していく。

◎学習会や研修会を通じ、バリアフリー調査やユニバーサルツーリズム、防災まちづくり等について提言できる当事者人材の育成を進めていく。

### ●福祉用具（補装具・日常生活用具）

◎必要なときに、必要な用具が、無理のない負担ですっと使い続けられよう求めていく。

◎自己負担軽減と地域格差解消に向けて移乗リフト普及調査をまとめていく。

### ●医療関係

◎専門医療機関不足の課題に対し、地域で継続的ケアを受けられる体制整備を求めていく。

◎呼吸器管理や褥瘡予防、高齢化によるフレイルや生活習慣病に対応するため、専門知識を持つ医療従事者の育成を求めていく。

◎孤立や不安を軽減するため、ピアサポートや地域相談ネットワーク整備を求めていく。

### ●住宅環境

◎住宅改修の助成制度の拡充と専門人材の育成を行っていく。

◎賃貸住宅のバリアフリー化促進を求めていく。

◎住宅改修の事例についての情報発信を行っていく。

### ●所得保障・就労

◎重度障害者が介助を利用して就労できる仕組みを求めていく。

◎重度訪問介護を就労にも利用でき、なおかつ報酬単価も通常の重度訪問介護報酬単価と同じにすることを求めていく。

◎障害年金の支給額引き上げを求めていく。

### ●女性の権利

◎専門家等と連携した学習会・シンポジウムを継続に開催していく。

◎女性頸髄損傷者同士が安心して交流できる場を拡充していく。

◎同性介助を含め、本人の意思が尊重される支援環境づくりを進めていく。

◎女性だけでなく男性も含め、共に学び考える機会を増やしていく。

## 2026 年度 予算案

2026 年度 全国頸髄損傷者連絡会 予算(案)			
(2026 年 4 月 1 日～2027 年 3 月 31 日)			
収入の部		支出の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
前期繰越	1,031,631	団体加盟費	87,000
本部会費	136,500	事務所使用料	180,000
本部運営分担金	447,000	旅費交通費	250,000
寄付金等収入	650,000	事務諸経費	250,000
助成金等収入	4,902,191	助成金等支出	4,902,191
		機関誌等印刷・発送費	400,000
		予備費	50,000
		次期繰越	1,048,131
	7,167,322		7,167,322

※助成金等収入における収入金額は、一般社団法人 日本損害保険協会の「自賠責運用益拠出事業」から交付を受けたものである

## 2026 年度 本部役員・事務局体制 (案)

会 長	鴨治 慎吾 (東京) (再任)
副 会 長	村田 恵子 (京都) (再任)
	柏岡 翔太 (大阪) (新任：次期総会開催地担当)
事務局長	宮野 秀樹 (兵庫) (再任)
編 集 長	宮野 秀樹 (兵庫) (再任：兼任)
会 計	三ツ井真平 (愛媛) (再任)
会計監査	毛利 公一 (香川) (再任)
事務局次長	鈴木 太 (愛媛) (再任)
事務局長補佐	関根 彩香 (本部) (再任)
事務局員	青山 和幸 (岐阜・ホームページ担当) (再任)
	篠田 義人 (岐阜・会計補佐&ML 管理担当) (再任)
	島本 義信 (大阪) (再任)

井谷 重人（愛媛）（再任）

## 全国頸髄損傷者連絡会規約（2026 改正案）

### 第 1 章 名称及び所在

第 2 条 本会の本部は以下に置く。

〒669-1323

兵庫県三田市あかしあ台 5 丁目 32-1

ウッディ殿ビル 402-B

特定非営利活動法人ぽしぶる内

↓

第 2 条 本会の本部は以下に所在地を置く。

〒669-1323

兵庫県三田市あかしあ台 5 丁目 32-1

ウッディ殿ビル 402-B

特定非営利活動法人ぽしぶる内

### 第 2 章 目的及び活動

（目的）

第 3 条

本会は、頸損者の生活を明るく豊かなものとしていくために、会員相互の親睦交流を深め、1人1人が積極的に参加する基盤の上で、共に語り、共に考え、共に歩むことにより、各自がそれぞれの生活設計を図る際の協力体制を作っていく。また、会員個々がそれぞれの自主性を高め、自立した生活を築く基盤を整備していく。

本会は、会員ならびにそれをとりまく人々と共に、より広い視野から障害者の状況改善を考え、重い障害を持つものが生活しやすい環境を作り出すことを目指すものである。

↓

（目的）

第 3 条

本会は、頸損者の生活を明るく豊かなものとしていくために、会員相互の親睦交流を深め、1人1人が積極的に参加する基盤の上で、共に語り、共に考え、共に歩むことにより、各自がそれぞれの生活設計を図る際の協力体制を作っていく。また、会員個々がそれぞれの自主性を高め、自立した生活を築く基盤を整備していく。

本会は、会員ならびにそれをとりまく人々と共に、より広い視

野から障害者の状況改善を考え、重い障害を持つものが生活しやすい環境を作り出すことを目指すものである。

本会は、関係法令並びに社会的規範を遵守するとともに、倫理性及び透明性を確保し、適正かつ公正な活動の運営に努めるものとする。

## 第9章 附 則

- 1) この規約は1976年4月10日より発効する。
- 2) 2003年6月8日、第2条及び全面改正、同日より発効する。  
(略)
- 9) 2025年6月8日 第2条、第19条、第20条改正、同日より発効する。
- 10) 2026年6月14日 第2条、第3条改正、同日より発効する。

### 【改正理由】

○本会の規約について、組織運営の明確化及び社会的信頼性の向上を図るため、一部改正を行うものである。

第2条については、日本郵便株式会社より、郵便物の取り扱いや各種手続き上、団体規約内に「所在地」を明記しておくことが望ましいとの助言を受けたことから、所在地に関する文言を追加する。

また、第3条については、日本損害保険協会より、近年、各種団体において法令遵守や適正運営が求められている社会的背景を踏まえ、コンプライアンスに関する規定を明記することが望ましいとの助言を受けた。このため、本会においても、関係法令及び社会的規範を遵守し、倫理性・透明性を確保した適正な活動運営を行う姿勢を明確にするため、「本会は、関係法令並びに社会的規範を遵守するとともに、倫理性及び透明性を確保し、適正かつ公正な活動の運営に努めるものとする。」との文言を追加するものである。

